

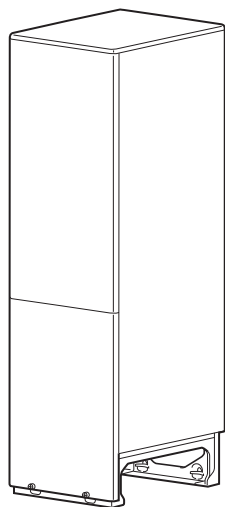
取扱説明書

ハイブリッド給湯システム タンクユニット ヒートポンプユニット

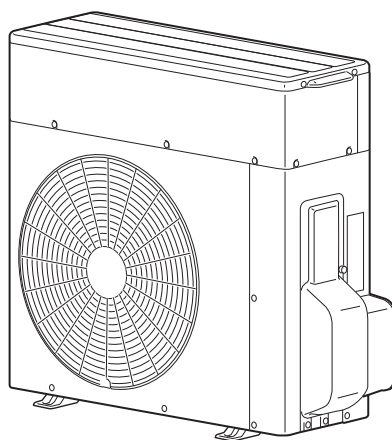
家庭用

保証書付

BL認定品



<タンクユニット>



<ヒートポンプユニット>

品 名	
タンクユニット	RTU-R700 シリーズ RTUP-R700 シリーズ
ヒートポンプユニット	RHP-R225 シリーズ RHP-R225-P シリーズ

ご愛用の皆様へ

- このたびはリンナイ製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みいただき正しくお使いください。
- この取扱説明書では、システムを構成する機器のうち、タンクユニットとヒートポンプユニットについて記載しております。お使いになる前に、この説明書とガス熱源機・リモコンの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
- この取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。内容をよくご確認のうえ、大切に保管してください。
- リモコンの使いかたについては、リモコンに付属の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 設置工事説明書を必ず設置工事店（販売店）から受け取ってください。
- 取扱説明書はいつでも使用できるよう設置工事説明書とともに大切に保管し、使用方法が分からないときにお読みください。
- この製品は国内専用です。

Rinnai

お使いになる前に

機器の設置場所を確認する

- 1

機器の設置場所を確認する。

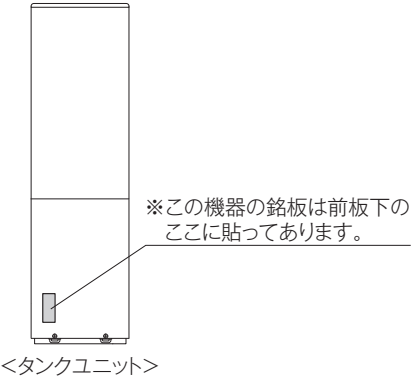
設置場所がわからないときは、機器の設置工事を行った施工店にご確認ください。

- 2

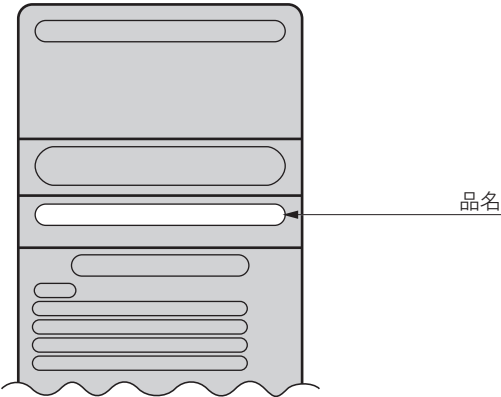
機器の品名を確認する。

品名は、機器の銘板に記載されています。

銘板の位置

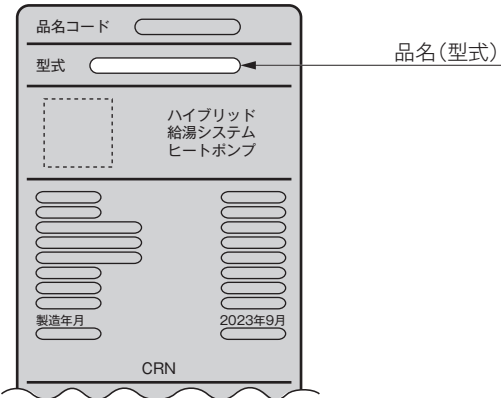
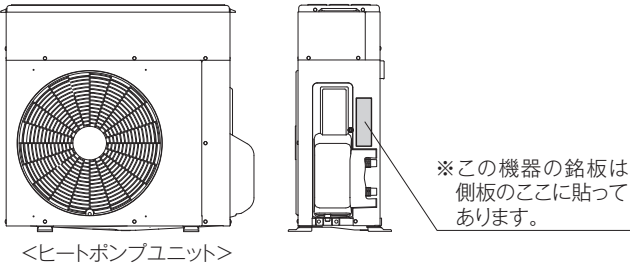


品名の位置



品名を確認したら、以下の欄に記入してください。

品名	
----	--



品名を確認したら、以下の欄に記入してください。

品名	
----	--

もくじ

安全なご利用のために

安全上のご注意（使用編）.....	3	●
安全上のご注意（設置編）.....	10	■

お使いになる前の準備

各部のなまえとはたらき	14	●
カバー類の取りはずし・取り付け方法.....	16	■
初めてお使いのとき.....	17	●

知っておいてください

冬期の凍結による破損防止について.....	18	■
再び使用するとき（タンク自動水はり運転）...25	25	●
再び使用するとき（手動水はり）	27	■
日常の点検・お手入れのしかた	31	●
長期間使用しないとき	34	■
断水したとき	35	●
故障かな？と思ったら	37	■
主な仕様・能力表	39	●
アフターサービスについて	41	■
保証書	裏表紙	

安全上のご注意 (必ずお守りください) (使用編)

- 製品を正しくお使いいただくためや、お客様や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。
- 以下に示す表示と意味をよく理解してから本文をお読みください。

 危険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

上記に述べる軽傷、物的損害とはそれぞれ次のようなものをいいます。

軽 傷：治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど（高温・低温）・感電などをさします。
物的損害：家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害をさします。

■絵表示には次のような意味があります。

	この絵表示は、気をつけていただきたい 「注意喚起」内容です。		火災注意						
	この絵表示は、してはいけない 「禁止」内容です。		火気禁止		触れないこと		分解禁止		ぬれ手禁止
	この絵表示は、必ず実行していただきたい 「強制」内容です。		電源プラグをコンセントから抜く						

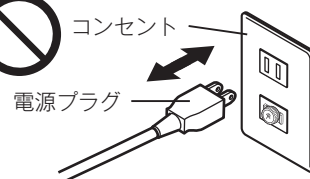
 危険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
---	--

ガス漏れに気づいたら（居室でガスのにおいを感じたら）



- 絶対に火をつけない
- 電気器具のスイッチの入 / 切をしない
- 電源プラグの抜き差しをしない
- 周辺の電話を使用しない

ガス漏れに気づいたときは、ガス事業者の係員による処置が終るまで上記のことを行わないこと。
炎や火花で引火して爆発事故のおそれがあります。



■すぐに使用を中止する

- ①すべてのガス栓とメーターのガス栓を開める。



- ②窓や戸を開けガスを外へ出す。



- ③外に出て、もよりのガス事業者（供給業者）に連絡する。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

給排気筒トップの周囲には



■給排気筒トップを洗たく物などで覆わない

■紙や木材などの燃えやすい物を置かない

火災の原因になります。

■スプレー缶・ガソリン・ベンジンなどの引火性危険物を置いたり、使用したりしない

引火して火災のおそれがあります。

■スプレー缶・カセットこんろ用ボンベなどを置いたり、使用したりしない

熱でスプレー缶内の圧力が上がりスプレー缶が爆発するおそれがあります。



ヒートポンプユニットの周囲には



■可燃性ガスや引火物を近くに置かない

発火・火災になるおそれがあります。

異常時の処置



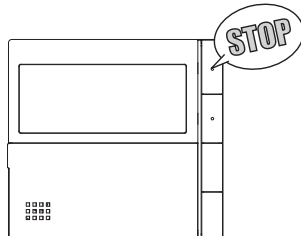
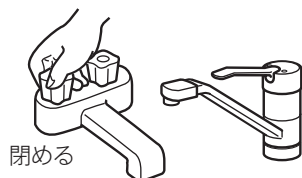
■異常時は使用を中止しガス栓を閉める

1.使用中に異常な臭気・異常音・異常な温度を感じた場合、機器が使用中で消火してしまった場合はただちに使用を中止してガス栓を閉めてください。

①給湯栓をすべて閉める。

②運転 (ON/OFF) スイッチを「切」にする。

③ガス栓を閉める。



2.異常を感じたときは、「故障かな?と思ったら」に従ってください。(P.37・38ページ)

3.上記の処置をしても直らない場合は使用を中止して、お買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

リンナイ(株) お客様センター フリーダイヤル: 0120-054321

■地震・火災などの緊急の場合は、ただちに使用を中止してガス栓・給水元栓を閉める

■ヒートポンプユニットの異常時(焦げ臭いなど)は使用を中止する

ヒートポンプユニットの電源を切ってお買い上げの販売店または当社お客様センターに連絡してください。(ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器または、ヒートポンプユニットの漏電遮断器を「切」(OFF)します)

異常のまま使用すると、故障や感電・火災の原因になります。

安全上のご注意 (使用編) (つづき)



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

ご使用について



■ガス熱源機本体に無理な力を加えない

ガス熱源機本体やガスの接続口などに乗らないでください。けがや機器の変形によるガス漏れ・不完全燃焼のおそれがあります。

■ヒートポンプユニットの上に乗ったり、物を載せたりしない

■ヒートポンプユニットのフィンや空気吹出口に棒や指を入れない

けがや機器故障の原因になります。

■熱いとき、ヒートポンプユニットの接続口や水抜き栓、配管にはさわらない

運転中および停止直後は熱くなっており、やけどのおそれがあります。

■浴槽のふたの上に乗ったり手をついたりしない

ふたがはずれておぼれたり、やけどなどの思わぬ事故のおそれがあります。



電源ケーブル・プラグについて

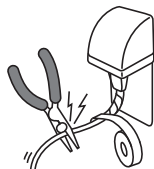


■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



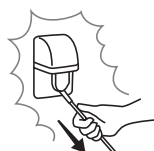
■電源ケーブルを切断して延長はしない

電源ケーブルがコンセントに届く範囲としてください。感電や火災などの原因になります。



■電源ケーブルを引っばって電源プラグを抜かない

電源ケーブルを引っばると破損して感電や火災の原因になります。



■電源ケーブルを破損させたり、加工したり、傷んだままや束ねたまま使用しない

故障や感電・火災の原因になります。

■分電盤の配線用遮断器またはヒートポンプユニットの漏電遮断器の操作をするとき、濡れた手で操作しない

感電の原因になります。



■電源プラグは根元まで完全に差し込む

差し込みが不完全な場合、感電・発熱による火災の原因になります。傷んだ電源プラグ、緩んだコンセントは使わないでください。



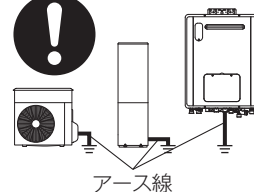
■電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く

電源プラグにほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。



■アースされていることを確認する

このシステムの機器はアースが必要です。アースされていることを確認してください。



■分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器の動作を定期的に確認する

故障のまま使用すると感電することがあります。故障の場合はお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

なお、漏電遮断器の操作をするとき、濡れた手で操作しないでください。感電の原因になります。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

やけど防止のため



■出始めのお湯は手や体にかけない

- お湯を止めた後に再使用するときや、お湯の量を急に少なくしたとき、トイレの水を流すなど大量の水を使用して給水圧が下がったとき、あるいは万一機器の故障の際には、一瞬熱いお湯が出る場合があります。
- シャワーなどお湯を使う場合、最初に熱いお湯が出る場合があります。やけど防止のため、シャワーはいきなり頭や体にかけないでください。

■給湯使用時は給湯栓が熱くなるのでやけどに注意する

■シャワー・給湯の使用中は、使用者以外はお湯の温度を変更しない

突然、熱湯が出てやけどをしたり、冷水が出て思わぬ事故につながる場合があります。



■手のひらで湯温を十分に確認する

- やけど防止のため、お湯を出す前にリモコンの給湯温度表示を確認し、出始めのお湯は体にかけないようにして、手で湯温を確かめてからお使いください。特に高温のお湯を使った後に再使用する場合は、配管中に熱いお湯が残っている場合がありますのでご注意ください。また、使い始めは正常でも使用中に熱くなる場合もありますので、熱いお湯が出た場合はすぐに使用を中止してください。なお、このような状態が続く場合は機器の故障の可能性がありますので、お買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。



- おいだき中やおいだき後は、浴槽の上部と下部で湯温に差がある場合があります。入浴時には十分にかきまぜてから、手で湯温を確認してください。

- おふろ沸かし（沸かし直し）時やおいだき運転中は、循環アダプター付近が熱くなっていますので、身体が直接触れないようご注意ください。また、保温中もときどき自動的においだきしますので、おいだき中と同様にご注意ください。



- 給水温が高い場合やお湯の量を絞って使う場合は、設定温度よりも熱いお湯が出る場合があります。このような場合は湯量を多めにしたり、必要に応じて水を混ぜてから湯温を確認してお使いください。

- パネルヒーターの表面にはさわらないでください。やけどの危険性があります。特に小さなお子様のいる家庭では注意が必要です。



- 床暖房の上で高い温度に設定したまま、長時間座ったり寝そべったりしないでください。低温やけどを起こす心配があります。

特に次のような方が使用する場合は、まわりの人が注意してあげることが必要です。

- ①乳幼児・お年寄り・病人など自分の意志で体を動かせない方
- ②疲労の激しいときやお酒や睡眠薬を飲まれた方
- ③皮膚や皮膚感覚の弱い方



安全上のご注意 (使用編) (つづき)



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

やけど防止のため



- 使用中や使用直後は排気口やその周辺に絶対手を触れない
排気口やその周辺は高温になっています。絶対に手で触れないでください。



ご使用上の注意



- 給湯・シャワー・お風呂沸かし・暖房以外の用途には使用しない
思わぬ事故や故障の原因になります。
- ガス熱源機のドレン配管接続口やシステムの排水口から排出される水は、飲用・調理用・飼育用などに使用しない
- ヒートポンプユニットの周辺にぬれて困るものは置かない
ドレン水が出ます。
- 排気口に指や棒を入れない
故障やけがの原因になります。
- アンモニアの発生源を置かない
アンモニアを発生させる物（ペットのトイレや堆肥など）は機器と同じ部屋に置かないでください。アンモニアが機器に悪影響を与え、故障の原因になります。
- 冬期、凍結のおそれがある時はヒートポンプユニットの電源を切らない
配管が凍結して水漏れすることがあります。

お子様には



- 浴槽に潜ったりさせない
- お子様だけで入浴させたりお湯を使わせたりしない
- 機器の周囲や直下で遊ばせない
思わぬ事故の原因になります。
- 浴室で遊ばせない
浴槽に落ちるなど思わぬ事故の原因になることがあります。

廃棄時の注意



- 機器を取り替えた場合、旧機器は専門の業者に処理を依頼する
お客様ご自身で処理する場合、乾電池を使用している機器は、必ず乾電池を取りはずしてから正規の処理を行ってください。

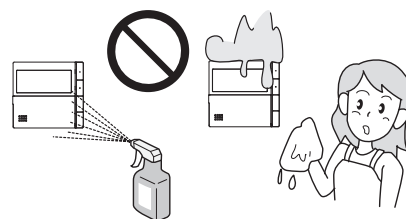


- 積雪時には除雪をする
ヒートポンプユニットの周囲に積雪すると、誤作動や故障の原因になります。
- 長期間使用しないときは、機器の排水をする
排水をしないと水質が変化することがあります。
- ヒートポンプユニットの電源を切るときは、機器と配管内の水を確実に抜く
配管が凍結し、水漏れすることがあります。
- ヒートポンプユニットの端子台カバー・配管カバーは閉じる
開けておくと雨水やごみが入り、漏電や感電することがあります。

お願い

■ ご使用について

- リモコンはお子様がいたずらしないように注意してください。
思わぬ事故や故障の原因になります。
- 浴室リモコンは防水タイプですが故意に水をかけないでください。
また、台所リモコンは防水タイプではありませんので水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
- リモコンの掃除には、塩素系・酸性・アルカリ性の洗剤、研磨剤入りの洗剤、シンナー・ベンジン・エタノールなどの有機溶剤、メラミンスポンジやたわしなどの硬いものを使用しないでください。変色・変形・割れ・傷などの発生や印刷・文字などが消えたり、機器の故障の原因となります。
- 台所リモコンに洗剤をかけたり、水洗いしたりしないでください。また、台所リモコンのまわりの壁にかけた洗剤や水がリモコンに垂れないようにふき取ってください。リモコンに洗剤や水が浸入して、故障の原因になります。
- リモコンは乱暴に扱わないでください。故障の原因になります。
- 市販の湯冷め防止器など、当社専用の別売品以外は使用しないでください。
- 運転（ON/OFF）スイッチを切った状態で、給湯栓を開けて水を出したり、シャワーを浴びないでください。機器内通水部分の結露により、機器の寿命が短くなります。
- 機器や配管内に長時間たまっていた水は、飲用や調理用には用いないでください。朝一番などのように長時間使わなかった後、お使い始めのまだぬるいお湯（洗面器一杯程度）は念のため雑用水としてお使いいただき、その後飲用水・調理用水としてお使いください。
- 給水配管が新しい場合や水質によっては、銅イオンがわずかにお湯の中に溶出し、青色の化合物が生成され、浴槽やタオルなどが青く見えることがあります。健康上支障ありませんが、中性洗剤で洗い・すすぎをよくすることにより、発色しにくくなります。
- 浴槽の循環アダプターをタオルなどでふさがないでください。ふさぐと循環不良となり、お風呂沸かしができません。
- 塩素系のカビ洗浄剤や酸性の浴室用洗剤・消臭剤または塩などが機器やガス管などにかかった場合は、すぐに十分な水洗いをしてください。思わぬ事故や故障の原因になります。
- 給水元栓を閉める場合は、必ず機器の水抜きを行ってください。（☞ 19～24ページ）
タンクとヒートポンプ間の配管で循環不良が発生し、ヒートポンプの過熱異常や、機器および配管の凍結破損の恐れがあります。



■ 飲用に使うときは

- そのまま使用しないでください。
飲用されるときは下記の点に注意し、必ず一度、やかんなどで沸騰させてください。
・必ず水質基準に適合した水を使用してください。
・熱いお湯が出てくるまでの水（配管内に貯まっている水）は、雑用水としてお使いください。
- 固形物や変色・濁り・異臭があった場合は、飲用には使用せず、お買い上げの販売店または当社お客様センターに点検を依頼してください。

安全上のご注意 (使用編) (つづき)

お願い

■断水したとき

- 断水時には運転を停止して給湯栓を閉めてください。給湯栓を開けたままにしておくと、給水が復歸したときに水が流れっぱなしになります。また断水が復歸した後、使い始めのお湯は飲用や調理用などには用いないでください。飲用や調理用に適さない水が給水配管内にとどまることがあります。給湯栓から十分に水を流してから使用してください。
- 断水時や近くで水道工事が行われるときは、このシステムの給水元栓を閉めてください。濁った水で機器内のストレーナなどが目詰まりし、湯量が減少したり、お湯が濁る原因になります。
- 断水復旧後は配管にたまった水を出してから使用してください。(P. 35・36ページ)

■入浴剤について

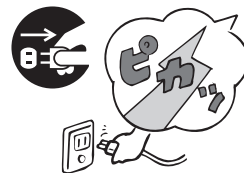
- 硫黄・酸・アルカリを含んだ入浴剤や洗剤は、熱交換器などが腐食する原因になるものがありますので入浴剤などのご注意文を十分にご参照ください。
- 泡の出る入浴剤は使用しないでください。使用した場合、循環不良となりお風呂沸かしができません。

■停電時のご注意

- 停電すると使用できません。水も出なくなることがありますが、このようなときは給湯栓を閉めてください。なお、停電時にポータブル電源や非常用電源（市販品）を利用するときはリモコンまたはガス熱源機の取扱説明書を参照してください。
- 冬季などに停電した場合は、凍結のおそれがあります。システムの水抜きを行ってください。(P. 19～24ページ)

■雷が発生したとき

- 雷が発生しはじめたらすみやかに運転を停止し、ガス熱源機の電源プラグをコンセントから抜き、ヒートポンプユニットの漏電遮断器を「OFF」にしてください。または、ガス熱源機とヒートポンプユニットがそれぞれ接続されている分電盤の配線用遮断器を「切」(OFF)にしてください。雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがあります。また、感電のおそれがありますので、ぬれた手で電源プラグをさわらないでください。
- 雷が遠ざかったことを確かめてから、電源プラグがぬれていないことを確認してコンセントにしっかりと差し込み、ヒートポンプユニットの漏電遮断器を「ON」にしてください。ガス熱源機とヒートポンプユニットがそれぞれ接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON)にしてください。その後、時刻・温度などの再設定をしてください。



ぬれた手で
さわらないこと

■点火・消火の確認

- 使用時の点火、使用後の消火を確認してください。

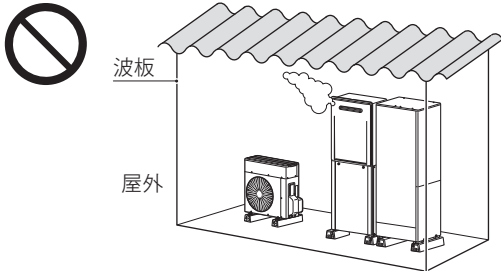
安全上のご注意 (設置編)

**危険**

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

屋内設置禁止

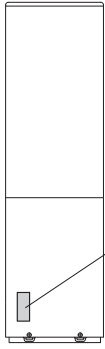
**■このシステムは屋外式**
このシステムは屋外設置専用です。絶対に屋内（波板囲いを含む）には設置しないでください。ガス熱源機の不完全燃焼や一酸化炭素中毒の原因になり大変危険です。また、万が一ヒートポンプユニットの冷媒が漏れると、酸欠により死亡または重傷事故（脳機能障害など）に至るおそれがあります。



**警告**

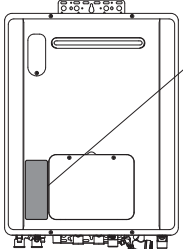
この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

■機器の銘板を確認
使用する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）および使用する電源（AC100V・50-60Hz共用）に適合していることを機器の銘板で確認してください。
表示以外のガス種および電源を使用すると不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、異常着火でやけどをしたり、機器が故障する場合がありますので使用しないでください。



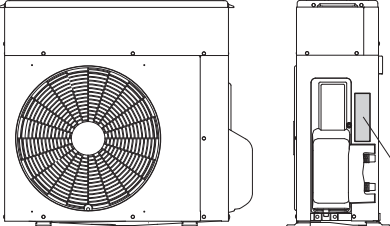
※この機器の銘板は前板下のここに貼ってあります。

<タンクユニット>



※この機器の銘板はフロントカバーのここに貼ってあります。

<ガス熱源機>



※この機器の銘板は側板のここに貼ってあります。

<ヒートポンプユニット>

この機器はAC100V（50-60Hz）用です。
AC100V以外の電源電圧では使用できません。
※下図は銘板の一例です。

品名

電源

製造年月
(右は2023年9月生産の例)

品名

型式名

ガスの種類
(右は都市ガス13A・12A用の例)

電源

製造年月
(右は2023年9月生産の例)

品名(型式)

品名コード

型式

ハイブリッド
給湯システム
ヒートポンプ

電源

製造年月
(右は2023年9月生産の例)

● ■ 安全上のご注意 (使用編) / 安全上のご注意 (設置編)

安全上のご注意 (設置編) (つづき)



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

システムの構成を確認

■下記の品名のユニットが接続してあることを確認

ガス熱源機	RHBF-RUM246AW RHBF-RK246AW/T RHBD-RU245AW2-1	RHBF-MR246AW RHBF-RK206SAW/T RHBD-R245AW2-1(S)	RHBF-RUK246AW/T
タンクユニット ※1	RTU-R700、RTU-R700K(寒冷地仕様)		
ヒートポンプユニット	RHP-R225		
ガス熱源機	RHBF-RUM246AW RHBF-RK246AW/T RHBD-RU245AW2-1	RHBF-MR246AW RHBF-RK206SAW/T RHBD-R245AW2-1(S)	RHBF-RUK246AW/T
タンクユニット	RTUP-R700		
ヒートポンプユニット	RHP-R225-P		
台所リモコン	MC-331 シリーズ、MC-301VC シリーズ、MC-301VCA シリーズ、MC-261VC シリーズ		
浴室リモコン	BC-332 シリーズ、BC-300VC シリーズ、BC-240VC シリーズ、BC-MB300VC シリーズ、BC-MB240VC シリーズ		

※塩害仕様の場合は品名末尾に「-EG」や「EG」が追加されているものもあります。

※1 工場出荷時の設定によっては品名末尾に「-PV」が追加されている場合があります。

ソーラー接続禁止



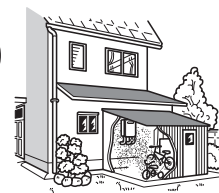
■この機器は、太陽熱温水器（ソーラーシステム）とは接続しない
ご希望の温度より高い温度のお湯が出てやけどをするおそれがあります。

設置場所



■屋外用のガス熱源機を増改築などによって屋内状態（自然換気のできない場所）にしない

ガス熱源機（排気口）を波板で囲んだりシートなどで覆わないでください。また、増改築や家屋の修理・外壁塗装のために養生シートで覆われているときは、機器を使用しないでください。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。



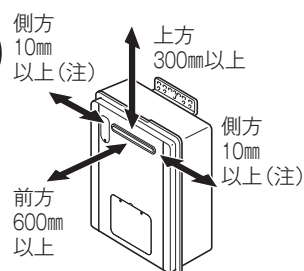
■ヒートポンプユニットを増改築などによって屋内状態にしない

ヒートポンプユニットや、ヒートポンプユニットの空気吸込口や空気吹出口を波板やビニール・塗装時に使用した養生シートなどで囲わないでください。万が一ヒートポンプユニットの冷媒が漏れると、酸欠により死亡または重傷事故（脳機能障害など）に至るおそれがあります。



■離隔距離を確保する

ガス熱源機周辺の物とは常に右図の離隔距離を確保してください。





警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

改造・分解禁止



■絶対に改造・分解は行わない

改造・分解は一酸化炭素中毒など思わぬ事故や故障の原因になります。また、火災の原因になります。

工事は資格必要



■この機器の設置・移動および付帯工事には専門の資格・技術が必要です。

工事は必ずお買い上げの販売店または施工店に依頼してください。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

設置場所

■機器の設置状態の確認

- 本システムの機器の設置にあたって次の項目をチェックし、満足していない場合には、お買い上げの販売店または施工店に連絡し、設置場所を変更してください。
 - ①機器は傾いて設置されていませんか？
 - ②メンテナンスができない場所に設置されていませんか？メンテナンスをお断りすることがあります。
 - ③近隣の家が騒音（燃焼音・燃焼用送風機・ポンプ回転音・ヒートポンプユニットの運転音など）で迷惑にならない場所に設置してありますか？
 - ④ヒートポンプユニットの空気吸込口・吹出口が降雪や除雪による雪・屋根などからの落雪で閉塞されることはありませんか？能力不足や機器の故障の原因となります。
 - ⑤キッチンの換気扇の近くに設置していませんか？油分の付着や燃焼排ガスにより、性能低下や機器故障の原因になります。
 - ⑥タンクユニット・ヒートポンプユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置していませんか？小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。また、周辺をきれいに保つようにしてください。
 - ⑦据置台が傷んだ状態で使用していませんか？落下、転倒し、けがをすることがあります。
 - ⑧ヒートポンプユニットの脚はアンカーボルトやプラ設置台に固定されていますか？
 - ⑨周囲の壁・天井などは防火上安全なものですか？また、防火上有効な間隔がありますか？
 - ⑩落雪・降雪・除雪による雪が、空気吸入口や吹出口をふさいだり、入りこまないように据え付けていますか？
- 植物やペットなど、ヒートポンプユニットからの冷風により悪影響を受けるものは、ヒートポンプユニットの周囲に置かないでください。
- このシステムで使用する水は、必ず水道法に定められた、飲料水の水質基準に適合した水とし、温泉水や地下水や井戸水では使用しないでください。また、水道水であっても塩分・石灰分やその他の不純物が含まれていたり、水質が酸性の地域では使用しないでください。機器の故障の原因となります。その場合は、保証期間内でも修理は有料となります。また、浴槽のお湯の水質を変える機器を使用しないでください。
- この機器は一般家庭用です。業務用として多頻度・長時間のご使用は、機器の寿命を著しく縮めることとなりますのでご承知おきください。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。
- ヒートポンプユニットの周囲に通風の妨げとなるものが置かれている場合は取り除いてください。性能低下や故障の原因となります。
- 床面が防水・排水処理されているか据付工事店へ確認してください。処理されていない場合、水漏れが起きたとき大きな損害につながる可能性があります。
- 機器は豪雨などのときにも冠水することがなく、排水が十分にできることを確認してください。漏電や故障の原因となります。

安全上のご注意 (設置編) (つづき)

お願い

■増改築する場合

- 塀などを増設する場合は、空気の流れが停滞しないように考慮してください。燃焼不良の発生を防止するためです。また、機器の点検・修理のための空間を確保してください。
(機器の点検修理のための空間については、お買い上げの販売店または施工店にお問い合わせください)

■機器の設置状態の確認

- 本システムの機器の設置にあたって次の項目をチェックしてください。
 - ① 冷・暖房機や換気扇の吹き出し口や吸い込み口付近は避けてありますか？ 正常な燃焼の妨げになることがあります。
 - ② 棚の上など落下物の危険はありませんか？
 - ③ ガス熱源機の排気口への積雪や、屋根から落ちた雪で排気口が閉塞されることはありませんか？ 不完全燃焼の原因になります。
 - ④ ヒートポンプユニットが以下の場所に設置されていませんか？
事故や故障の原因となります。
 - ・ 最低気温が-15℃以下となる場所
 - ・ 屋内
 - ・ 塩害地（塩害仕様は除く）
 - ・ 階段・避難口などの付近で、避難の支障となる場所
 - ・ 冠水する場所や排水しにくい場所
 - ・ 潮風が直接当たる場所

以上の項目を満足していない場合には、お買い上げの販売店または施工店に連絡し、設置場所を変更してください。

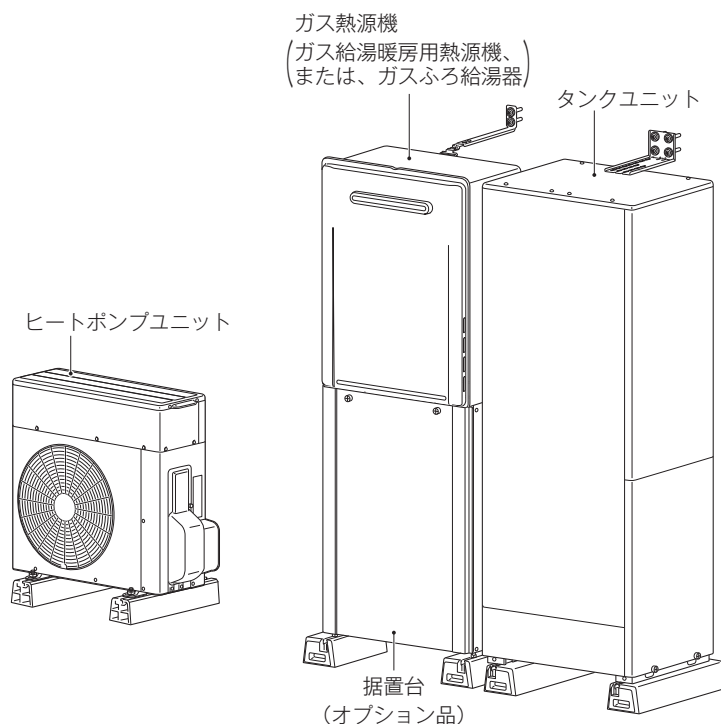
- 増改築によって、燃焼排ガスが直接建物の外壁・窓・ガラス・網戸・アルミサッシなどに当たらないようにしてください。変色・破損・腐食の原因になります。
- 植物やペットなど、燃焼排ガスによって加熱されると困るものや悪影響を受けるものは排気口・排気筒トップの周囲に置かないでください。
- 事故防止のため、この機器専用の付属品・別売品以外は使用しないでください。
- この機器は海拔1,000mまで使用できます。1,000mを超える地域で使用すると、点火不良などの不具合が発生することがあります。
- ヒートポンプユニットはテレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。テレビ・ラジオに映像の乱れや雑音が生じることがあります。

■日本国内向け

- 海外での設置および使用はしないでください。

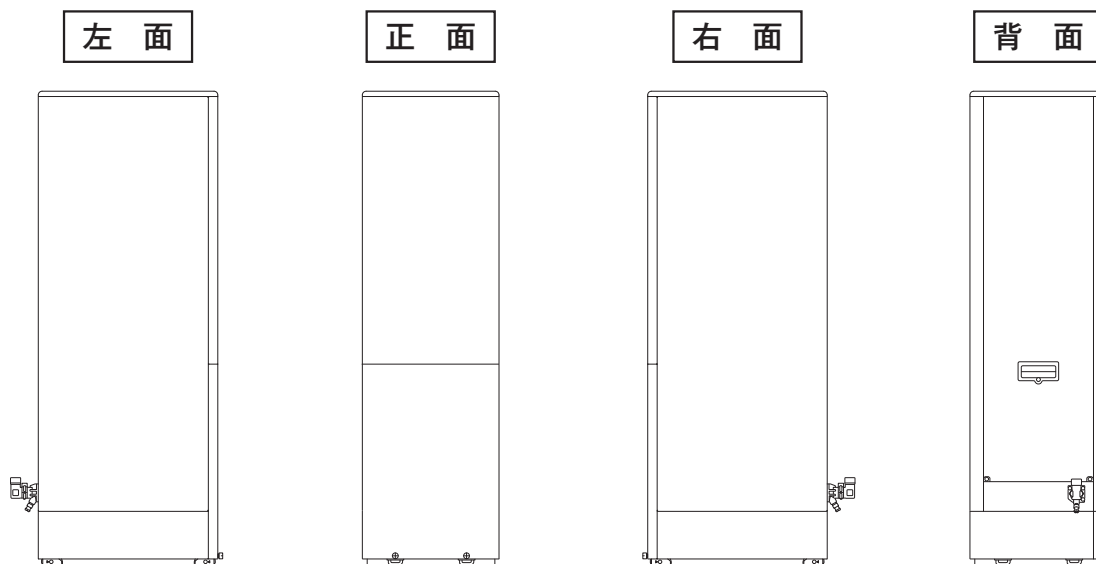
各部のなまえとはたらき

ハイブリッド給湯システムは、タンクユニット、ヒートポンプユニット、ガス熱源機によって構成されています。



タンクユニット

- ヒートポンプユニットで作ったお湯を貯めておきます。
- 貯まったお湯と水を混ぜて給湯します。

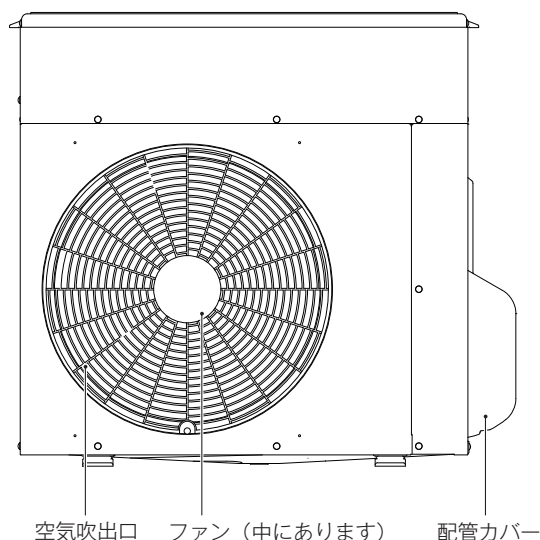


各部のなまえとはたらき (つづき)

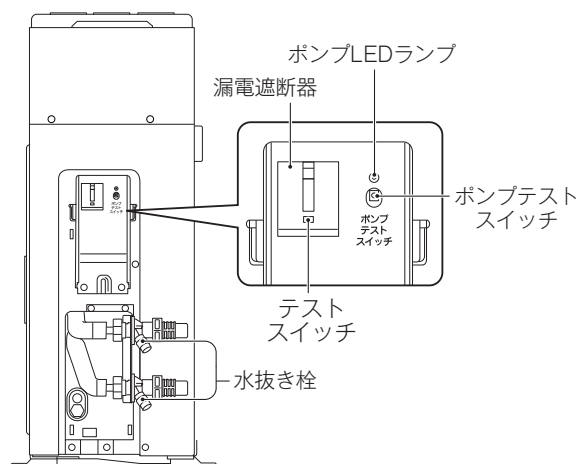
ヒートポンプユニット

- 空気の熱を利用してお湯を作ります。(タンク沸き上げ運転を行います)

正面



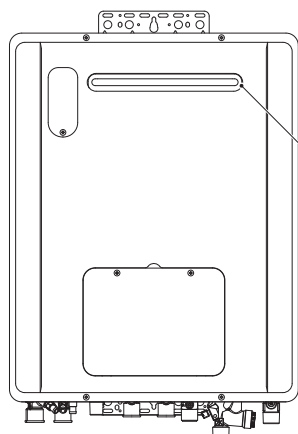
右面



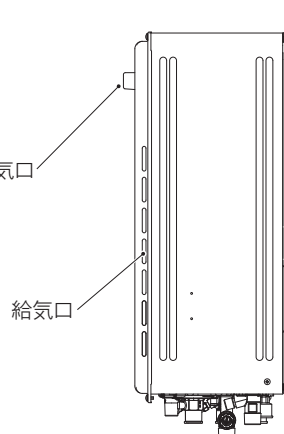
ガス熱源機

- ガスを燃焼させてお湯を作ります。

正面



右面



お知らせ

- ・タンクユニットは、タンクに貯めたお湯と水を混合させて、リモコンの給湯温度のお湯を出湯します。
- ・タンク内のお湯が少ない(ぬるい)場合にはガス熱源機がおい加熱して給湯します。
- ・ヒートポンプユニットは、ガス給湯器のように出湯時に必ず運転するものではありません。出湯していない状態でもタンク沸き上げ運転をする場合があります。
- ・カバー類の取りはずしかたは16ページを参照してください。

カバー類の取りはずし・取り付け方法

- 以下のカバー以外は決してはずさないでください。
- カバー類を取りはずして再び取り付けるときは、カバー類が確実に固定されていることを確認し、定期的に点検してください。取付ねじがゆるんではずれていたりすると、思わぬ事故の原因になります。

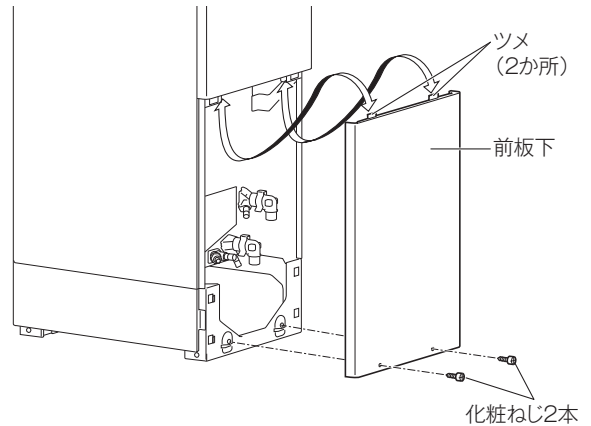
タンクユニット

取りはずし方法

- 1 化粧ねじ（2本）を取りはずしてください。
- 2 前板下を取りはずしてください。

取り付け方法

- 1 前板下のツメを、上部にある穴（2か所）に差し込んでください。
- 2 化粧ねじ（2本）で、前板下を固定してください。



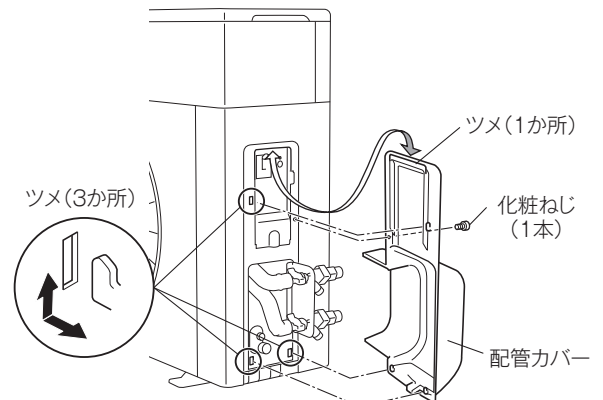
ヒートポンプユニット

取りはずし方法

- 1 化粧ねじ（1本）を取りはずしてください。
- 2 配管カバーを取りはずしてください。

取り付け方法

- 1 ヒートポンプユニットの穴にツメ（4か所）を差し込んでください。
- 2 化粧ねじ（1本）で、配管カバーを固定してください。



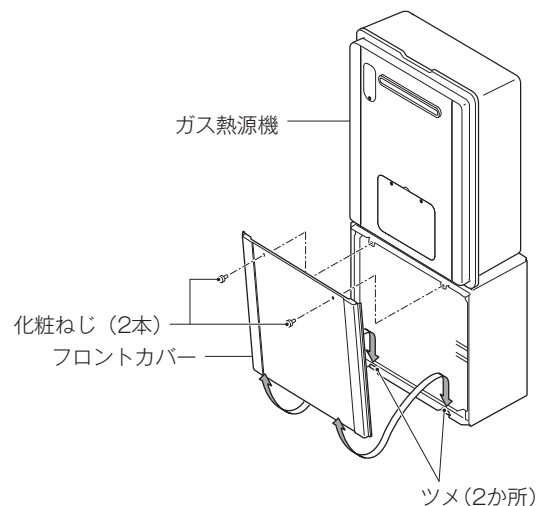
ガス熱源機(据置台、配管カバーをご使用の場合)

取りはずし方法

- 1 化粧ねじ（2本）を取りはずしてください。
- 2 フロントカバーを取りはずしてください。

取り付け方法

- 1 フロントカバーの穴を、下部にあるツメ（2か所）に差し込んでください。
- 2 化粧ねじ（2本）で、フロントカバーを固定してください。



● 各部のなまえとはたらき／カバー類の取りはずし・取り付け方法

初めてお使いのとき

水はり

- 本システムは、あらかじめ試運転・水はりが必要です。お買い上げの販売店に下記をご確認ください。
 - ①試運転を実施していること
 - ②試運転後に水抜きを行ったか
- 試運転後に水抜きを行った場合、お客様のご使用状況に応じた方法で、水はりを行ってください。

水はり 方法 1	「タンク自動水はり運転」機能で水はりを行う (MC-301 シリーズ、MC-331 シリーズリモコンご使用時は主にこの方法で水はりします)	25 ページ参照
水はり 方法 2	手動で水はりを行う (停電時や MC-261 シリーズリモコンご使用時はこの方法で水はりします) ※ポータブル電源や非常用電源使用時を含みます。	27 ページ参照

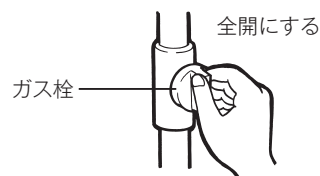
※リモコンに「手動水はりモード」の案内画面が表示される場合がありますが、その場合は水はり方法 1 で水はりを行ってください。

⚠注意

- ぬれた手で電源プラグや漏電遮断器をさわらないでください。感電のおそれがあります。
- サーモスタット式やワンレバーの混合水栓の場合は、再使用時の設定温度にご注意ください。

水はり後

- 1 給水元栓を全開にしてください。
- 2 給湯栓を開け、水が出ることを確認してから閉めてください。
 - 給湯栓はお湯の使用場所にあります。(シャワーや台所など) すべての給湯栓について確認してください。
 - ※サーモスタット式やワンレバーの混合水栓の場合は、設定を最高温度の位置にした状態で確認してください。
- 3 ガス熱源機の電源を入れてください。
 - コンセントは機器付近の壁などにあります。
 - 電源プラグを屋外コンセントに差し込み、ガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON) にする。
 - タンクユニットの電源も同時に入ります。
- 4 ガス栓を全開にしてください。
 - ガス栓はガス熱源機の下部または側部にあります。
- 5 ヒートポンプユニットの電源を入れてください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「入」(ON) にする。
(RHP-R225-P シリーズの場合は、電源プラグを屋外コンセントに差し込む)



冬期の凍結による破損防止について

暖かい地域でお使いのお客様も必ずお読みください。

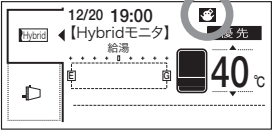
対策方法

●冬期は暖かい地方でも、給水・給湯配管の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。こうした事故を防止するために、次のような処置をお取りください。

⚠️ 注意

- 下記の場合、対策方法 1 では凍結予防ができないため、対策方法 2 を行ってください。
 - ①外気温が -10°C 以下になる日やそれ以上の気温でも風のある日の場合
(タンクユニットが寒冷地仕様の場合は -15°C 以下)
 - ②停電中、屋外の水が凍るおそれがあり、お湯を使わない場合 (ポータブル電源や非常用電源使用時も含む)
- 凍結による破損の場合は、保証期間内でも有料修理となります。

【対策方法1】凍結予防ヒータと自動運転

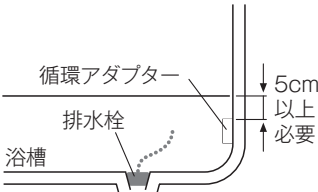
タンクユニット	●外気温が下がると自動的に機器内を保温するヒータが組み込まれています。
ガス熱源機	●外気温が下がると自動的に機器内を保温するヒータ (給湯側) と自動ポンプ運転装置 (ふろ側・暖房側) が組み込まれています。 ※自動ポンプ運転を開始すると、各リモコンの表示画面に「  」表示が出ます。 (BC-300VC(B)の例)  (MC-301VC(B)の例) 
ヒートポンプユニット	●外気温が下がると給水ポンプが運転してヒートポンプユニットとタンクユニットの凍結を予防します。 ●さらに外気温が下がると、自動的にタンク沸き上げ (低温) をして凍結を予防します。

お客様に行っていただきたいこと

- 1

ガス熱源機の電源が入っていることを確認してください。
 - 電源プラグを屋外コンセントに差し込み、ガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON)にします。
 - コンセントは機器付近の壁などにあります。
 - リモコンの運転 (ON/OFF) スイッチは「入」「切」どちらの状態でも作動します。
- 2

ヒートポンプユニットの電源が入っていることを確認してください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「入」(ON)にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は、電源プラグを屋外コンセントに差し込む)
- 3

浴槽の残り湯が循環アダプターより 5cm 以上、上にある状態にしておいてください。
 - 機器が外気温を感知し、自動的にポンプ運転を行います。
 - 浴槽の残り湯が循環アダプターより 5cm 以上ない場合は、外気温が凍結する温度になる前に浴槽の水をふやして 5cm 以上になるようにしてください。
- 4

配管に凍結予防ヒータが設置されている場合は、凍結予防ヒータの電源が「入」であることを確認してください。

お願い

- 暖房の凍結予防について (ガス給湯暖房用熱源機をご使用の場合)
- ・外気温が 0°C 近くまで下がってくると、自動的にポンプが運転し、暖房燃烧して暖房水を循環させて、凍結を予防します。
(電源プラグをコンセントから抜かないでください。ガス栓も閉めないでください)
 - ・「❄️」スノーマークがある放熱器は運転つまみをスノーマークに合わせてください。
 - ・暖房の凍結予防運転時の暖房燃烧中に排気口から白い湯気が出ることがありますが、これは水蒸気であり、機器の故障ではありません。

初めてお使いのとき／冬期の凍結による破損防止について

冬期の凍結による破損防止について

【対策方法2】 水抜き

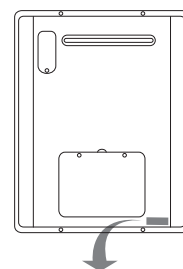
- 機器内の水を抜くことで凍結を予防する方法です。
- 下記の場合、水抜きを行ってください。
 - ①外気温が -10°C 以下になる日やそれ以上の気温でも風のある日の場合
(タンクユニットが寒冷地仕様の場合は -15°C 以下)
 - ②停電中、屋外の水が凍るおそれがあり、お湯を使わない場合 (ポータブル電源や非常用電源使用時を含む)
 - ③長期間にわたって機器を使用しない場合

水抜き

- お客様のご使用状況に応じた方法で行ってください。

水抜き方法 1	「水抜きモード」機能で水抜きを行う (MC-301シリーズ、MC-331シリーズリモコンご使用時は主にこの方法で水抜きします)	21 ページ参照
水抜き方法 2	手動で水抜きを行う (停電時や MC-261 シリーズリモコンご使用時はこの方法で水抜きします) ※ポータブル電源や非常用電源使用時を含みます。	23 ページ参照

- お使いになっている、ガス熱源機の型式を確認して作業してください。(水抜き栓などの位置が異なります)
- 水抜き栓などの位置は 20 ページを参照してください。
- 使用後は機器内のお湯が高温になっていますので、機器が冷めてから行ってください。
- 暖房側の水抜きは下記の場合のみ行ってください。
 - ①不凍液が入っていない場合 (不凍液が入っている場合は、フロントカバー右下にラベルが貼ってあります)
 - ②長期間にわたって機器を使用せず、電源を切る場合



不凍液が入っています

再び使用するとき

- 再び使用するときは機器に水はりが必要です。お客様のご使用状況に応じた方法で行ってください。

水はり方法 1	「タンク自動水はり運転」機能で水はりを行う (水抜き方法 1 で水抜きした場合はこの方法で水はります)	25 ページ参照
水はり方法 2	手動で水はりを行う (水抜き方法 2 で水抜きした場合はこの方法で水はります)	27 ページ参照

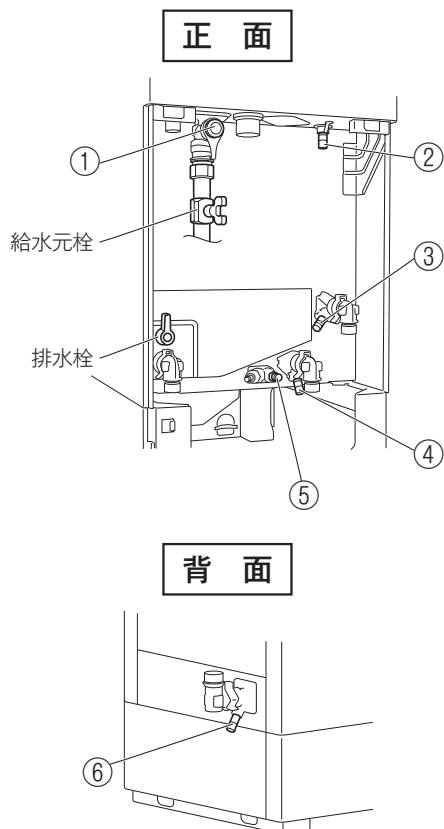
※リモコンに「手動水はりモード」の案内画面が表示される場合がありますが、その場合は水はり方法 1 で水はりを行ってください。

(つづき)

水抜き栓の位置

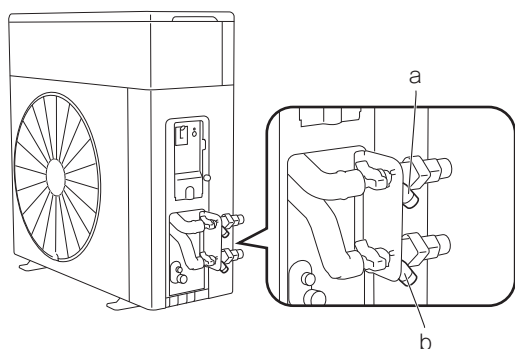
タンクユニット

給水元栓、排水栓、水抜き栓①～⑥



ヒートポンプユニット

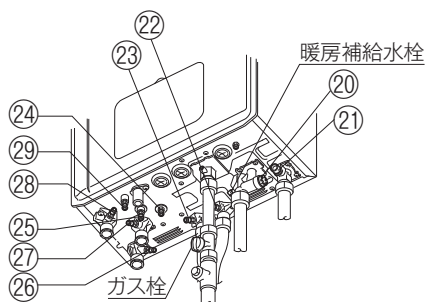
水抜き栓 a・b



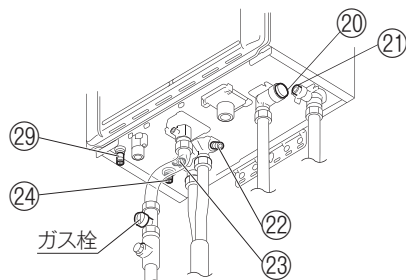
ガス熱源機

ガス栓、暖房補給水栓、水抜き栓⑳～㉓

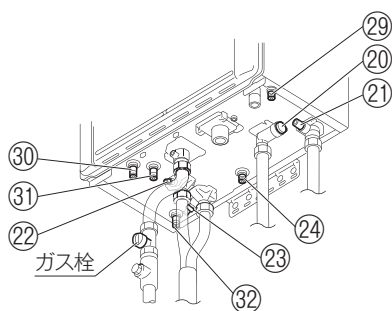
RHBD-R245 シリーズ
RHBD-RU245 シリーズ



RHBF-RK246 シリーズ
RHBF-RUK246 シリーズ
RHBF-RK206 シリーズ



RHBF-MR246 シリーズ
RHBF-RUM246 シリーズ



冬期の凍結による破損防止について

冬期の凍結による破損防止について

水抜き

⚠注意

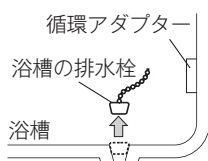
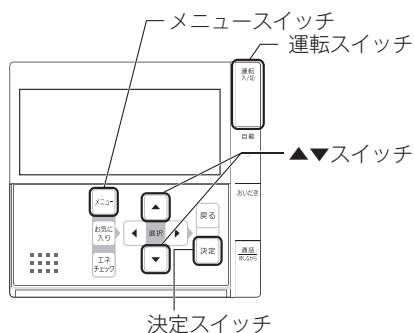
- 冬期にハイブリッド給湯システムや凍結予防ヒーターの電源を「切」にする場合は、機器の水抜きを行ってください。凍結すると配管などが破裂し、水漏れのおそれがあります。
- ぬれた手で電源プラグや漏電遮断器をさわらないでください。感電のおそれがあります。
- 水抜きの際には、熱いお湯が出る場合がありますのでやけどに注意してください。
- 水抜き栓などの位置はお使いの機器の型式によって異なります。詳細な位置は、20 ページやお使いになっているガス熱源機の取扱説明書を参照してください。

【水抜き方法1】「水抜きモード」機能で水抜きを行う

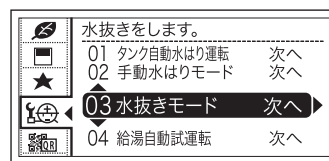
- システムの構成などにより、リモコン画面に表示されるメニューが異なります。
(以下、MC-301 シリーズリモコンの画面を例に説明します)

給湯側・ふろ側の水抜き

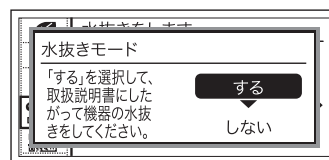
- 1 機器のカバー類を取りはずしてください。
(☞ 16 ページ)
- 2 給水元栓とガス栓を閉めてください。
※必ず行ってください。
- 3 浴槽の排水栓を抜いてください。
- 4 給湯栓を開けてください。
- 5 リモコンの【運転】(ON/OFF) スイッチを「切」にして【メニュー】(MENU) スイッチを押してください。
 - 初期設定の画面が表示されます。



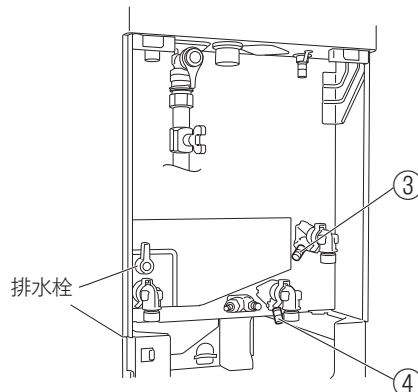
- 7 「水抜きモード」を選択して【決定】(OK) スイッチを押してください。



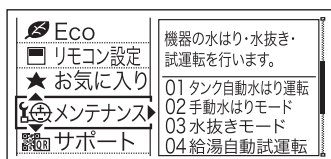
- 8 「する」を選択して【決定】(OK) スイッチを押してください。
 - 循環アダプターから水が出ます。



- 9 循環アダプターから水が出なくなったら、下記の水抜き栓を開けてください。
 - タンクユニット 排水栓、水抜き栓③・④
 - 機器内の水が抜けるまで約 20 分かかります。



- 6 「メンテナンス」を選択して【決定】(OK) スイッチを押してください。
 - 【▲・▼】スイッチで選択します。



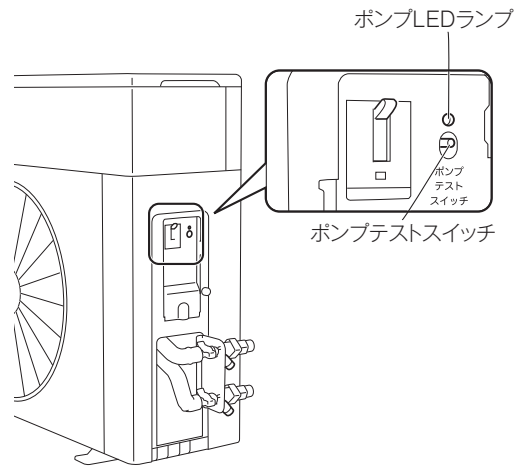
(つづき)

10 下記の水抜き栓を開けてください。 (☞ 20 ページ)

- タンクユニット 水抜き栓①～⑥
- ガス熱源機 水抜き栓⑳～㉔・㉙～㉚
- ヒートポンプ 水抜き栓 a・b
- 配管途中の水抜き栓 (付いている場合のみ)

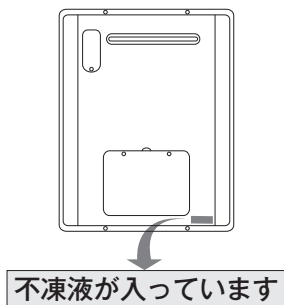
11 水が出なくなったら、ヒートポンプユニットのポンプテストスイッチを押してください。

- ポンプLED ランプが点滅⇒点灯し、約 15 秒後、3 回点滅になったら完了です。



暖房側の水抜き (ガス給湯暖房用熱源機ご使用の場合)

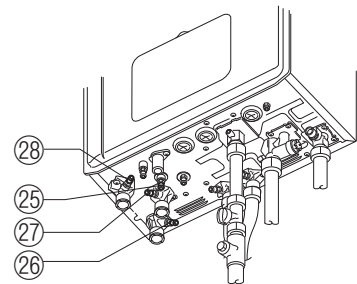
- 暖房側の水抜きは不凍液を使用していない場合に行ってください。(不凍液が入っている場合はフロントカバー右下にラベルが貼ってあります)



1 下記の水抜き栓を開けてください。

※熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。

- ガス熱源機 水抜き栓㉕～㉘



水抜きが終了したら

- ふろの水抜きを行った後は、浴槽に水を流し込まないでください。

1 ガス熱源機の電源を切ってください。

- 電源プラグを抜く、またはガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「切」(OFF) にします。
- コンセントは機器付近の壁などにあります。

2 ヒートポンプユニットの電源を切ってください。

- ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「切」(OFF) にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は、電源プラグを抜く)

3 下記のすべての栓を閉めてください。 (☞ 20 ページ)

- タンクユニット 給水元栓、排水栓、水抜き栓①～⑥
- ガス熱源機 ガス栓、水抜き栓㉕～㉚
※暖房補給水栓は閉めないでください。
- ヒートポンプ 水抜き栓 a・b
- すべての給湯栓 (シャワーや台所など)
- 配管途中の水抜き栓 (付いている場合のみ)

4 取りはずしたカバー類を取り付けてください。 (☞ 16 ページ)

冬期の凍結による破損防止について

水抜き

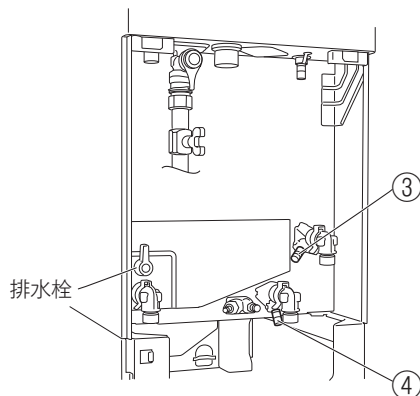
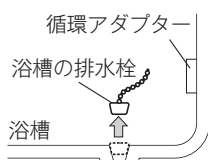
⚠注意

- 冬期にハイブリッド給湯システムや凍結予防ヒーターの電源を「切」にする場合は、機器の水抜きを行ってください。凍結すると配管などが破裂し、水漏れのおそれがあります。
- ぬれた手で電源プラグや漏電遮断器をさわらないでください。感電のおそれがあります。
- 水抜きの際には、熱いお湯が出る場合がありますのでやけどに注意してください。
- 水抜き栓などの位置はお使いの機器の型式によって異なります。詳細な位置は、20 ページやお使いになっているガス熱源機の取扱説明書を参照してください。

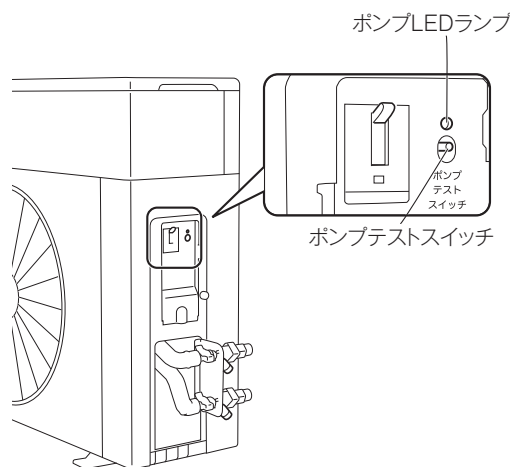
【水抜き方法2】手動で水抜きを行う

給湯側・ふろ側の水抜き

- 1 浴槽の排水栓を抜いてください。
- 2 リモコンの【運転】(ON/OFF) スイッチをいったん「入」にしてから再度「切」にしてください。
- 3 「切」にしてから 30 分以内にガス熱源機の電源を切ってください。
 - 電源プラグを抜く、またはガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「切」(OFF) にします。
- 4 機器のカバー類を取りはずしてください。(20 ページ)
- 5 給水元栓とガス栓を閉めてください。
※必ず行ってください。
- 6 すべての給湯栓を開けてください。
- 7 下記の水抜き栓を開けてください。
 - タンクユニット 排水栓、水抜き栓③・④
 - 機器内の水が抜けるまで約 20 分かかります。



- 8 下記の水抜き栓を開けてください。
(20 ページ)
※熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。
 - タンクユニット 水抜き栓①～⑥
 - ガス熱源機 水抜き栓②①
 - ヒートポンプ 水抜き栓 a・b
 - 配管途中の水抜き栓 (付いている場合のみ)
- 9 水が出なくなったら、ヒートポンプユニットのポンプテストスイッチを押してください。
 - ポンプ LED ランプが点滅⇒点灯し、約 15 秒後、3 回点滅になったら完了です。



- 10 ヒートポンプユニットの電源を切ってください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器またはヒートポンプの漏電遮断器のレバーを「切」(OFF) にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを抜く)
 - ※漏電遮断器は濡れた手で操作しないでください。感電のおそれがあります。
- 11 ガス熱源機がガス給湯暖房用熱源機の場合はガス栓を開けてください。
※ガス熱源機がふろ給湯器の場合はガス栓を閉めたままにします。

(つづき)

12 ガス熱源機の電源を入れてください。

- 電源プラグを屋外用コンセントに差し込み、ガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON)にします。
 - コンセントは機器付近の壁などにあります。
- ※リモコン表示画面に故障表示 308 を点滅する場合や“ヒートポンプの電源を確かめてください”という音声が出る場合がありますが、異常ではありません。

13 浴室リモコンの【運転】(ON/OFF)スイッチを「入」にしてください。

14 浴槽の水がすべて排水されたことを確認してから、浴室リモコンの【おいだき】スイッチを「入」にしてください。

15 3分以上経過後、再度【おいだき】スイッチを押して「切」にしてください。

- すぐに排水が止まった場合でも、【おいだき】スイッチを「入」にしてから約3分はそのままにしてください。
- 【おいだき】スイッチが「入」のまま数分間すると表示画面に故障表示が点滅する場合がありますが、異常ではありません。

16 下記の水抜き栓を開けてください。 (☞ 20 ページ)

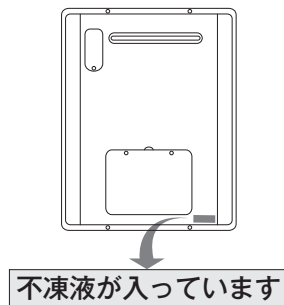
※熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。

- ガス熱源機 水抜き栓⑳～㉔・㉙～㉚

17 ガス栓を閉めてください。

暖房側の水抜き (ガス給湯暖房用熱源機ご使用の場合)

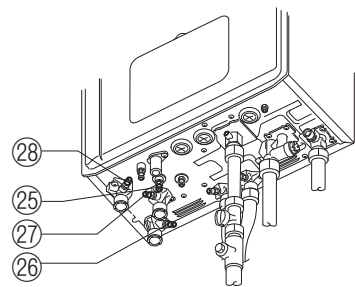
- 暖房側の水抜きは不凍液を使用していない場合に行ってください。(不凍液が入っている場合はフロントカバー右下にラベルが貼ってあります)



1 下記の水抜き栓を開けてください。

※熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。

- ガス熱源機 水抜き栓㉕～㉘



2 リモコンの表示画面に故障表示「543」が表示されることを確認してください。

水抜きが終了したら

- ふろの水抜きを行った後は、浴槽に水を流し込まないでください。

1 ガス熱源機の電源を切ってください。

- 電源プラグを抜く、またはガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「切」(OFF)にします。

2 下記のすべての栓を閉めてください。 (☞ 20 ページ)

- タンクユニット 給水元栓、排水栓、水抜き栓①～⑥
- ガス熱源機 ガス栓、水抜き栓㉕～㉘
※暖房補給水栓は閉めないでください。
- ヒートポンプ 水抜き栓 a・b
- すべての給湯栓 (シャワーや台所など)
- 配管途中の水抜き栓 (付いている場合のみ)

3 取りはずしたカバー類を取り付けてください。 (☞ 16 ページ)

再び使用するとき (タンク自動水はり運転)

水抜きをした機器を次に使うときは、お客様のご使用状況に応じた方法で水はりを行ってください。

水はり方法 1	「タンク自動水はり運転」機能で水はりを行う (水抜き方法 1 で水抜きした場合や MC-301 シリーズ、MC-331 シリーズリモコンご使用時はこの方法で水はりします)	本ページ参照
水はり方法 2	手動で水はりを行う (水抜き方法 2 で水抜きした場合や停電時、MC-261 シリーズリモコンご使用時はこの方法で水はりします)	27 ページ参照

※リモコンに「手動水はりモード」の案内画面が表示される場合がありますが、その場合は水はり方法 1 で水はりを行ってください。

【水はり方法1】「タンク自動水はり運転」機能で水はりを行う

- システムの構成などにより、リモコン画面に表示されるメニューが異なります。

お願い

- ・凍結予防ヒーターの電源が「切」の場合は、「入」にしてください。
- ・水抜き栓は、工具で締め付けないでください。破損のおそれがあります。

1 機器のカバー類を取りはずしてください。
(16 ページ)

2 下記の栓がすべて閉めてあることを確認してください。(20 ページ)

- タンクユニット 給水元栓、排水栓、水抜き栓①～⑥
- ガス熱源機 ガス栓、水抜き栓②③④
- ※暖房補給水栓は閉めないでください。
- ヒートポンプ 水抜き栓 a・b
- すべての給湯栓 (シャワーや台所など)

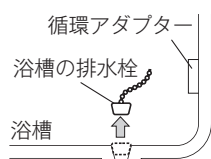
3 ヒートポンプユニットの電源を入れてください。

- ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「入」(ON) にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを屋外コンセントに差し込む)

4 ガス熱源機の電源を入れてください。

- 電源を入れてから 5 分以内に手順 5 ～ 11 を行ってください。
- 電源プラグを屋外コンセントに差し込み、ガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON) にします。
- コンセントは機器付近の壁などにあります。
- タンクユニットの電源も同時に入ります。

5 浴槽の排水栓を抜いてください。



6 リモコンに下図の画面が表示されている場合は表示に従ってリモコンを操作してください。

スタンバイモード中
☒ 停電モードに切り替える場合は 5 分以内に「決定」スイッチを 5 秒以上押してください
 切り替えない場合は「運転」スイッチを押してください。

(リモコンの【運転】(ON/OFF) スwitchを押してください)
(停電モードについてはリモコン取扱説明書参照)

新入居などで使用者が変わる場合は
 リンナイ専用アプリとの接続用の
 認証コードを変更します。
 (この画面は機器に通電開始した
 時に表示します)

(リモコンの【決定】(OK) スwitchなどを操作してください)
(詳しくは無線 LAN 接続設定ガイド参照)

7 【運転】(ON/OFF) スwitchを「切」にしてください。

- 運転スswitchランプが消灯していることを確認してください。

8 【メニュー】(MENU) スwitchを押してください。

9 「メンテナンス」を選択して【決定】(OK) スwitchを押してください。

- 【▲・▼】スswitchで選択します。

Eco
☒ リモコン設定
 ★ お気に入り
☒ メンテナンス
☒ サポート

機器の水はり・水抜き・
 試運転を行います。

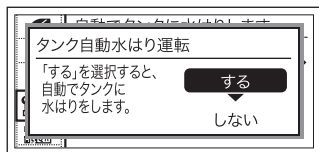
01 タンク自動水はり運転
 02 手動水はりモード
 03 水抜きモード
 04 給湯自動試運転

10 「タンク自動水はり運転」を選択して【決定】(OK) スwitchを押してください。

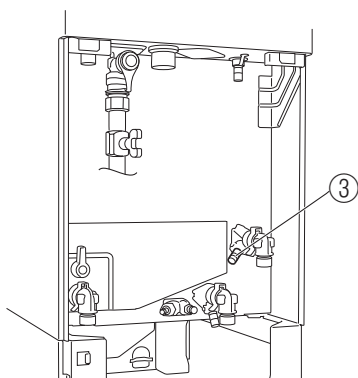
自動でタンクに水をはりをします。

01 タンク自動水はり運転 次へ
 02 手動水はりモード 次へ
 03 水抜きモード 次へ
 04 給湯自動試運転 次へ

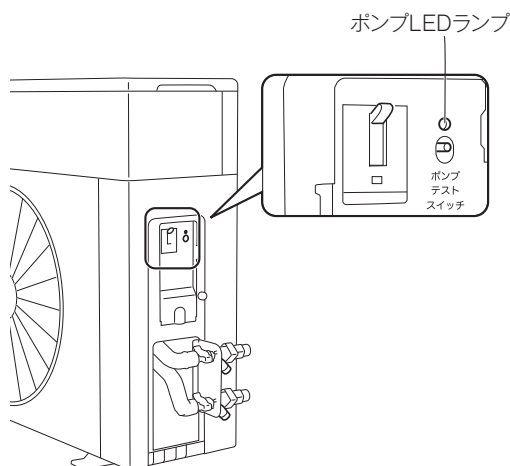
- 11** 「する」(開始する)を選択して【決定】(OK)スイッチを押してください。



- 12** 給水元栓を開けてください。
●浴槽の循環アダプターから空気混じりの水が出ます。
- 13** タンクユニットの水抜き栓③を開けてください。

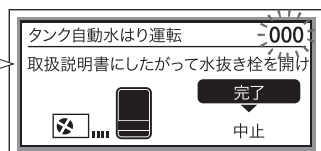


- 14** 水が1分以上連続して出てくることを確認したら、水抜き栓③を閉めてください。
●外気温が低い場合、約3分後にヒートポンプユニットのポンプLEDランプが2回の速点滅することがあります。その場合、再度水抜き栓③を開けてください。
ポンプLEDランプが2回の速点滅⇒点灯または点滅になったら、水抜き栓③を閉めてください。



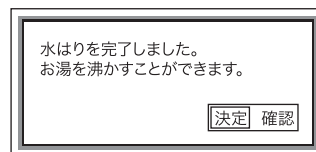
※水が出ない場合や表示画面に故障表示や下記のようなガイダンスが表示された場合は、機器の凍結、配管の凍結、または詰まりなどの可能性があります。29ページの作業を行ってください。

「取扱説明書にしたがって、水抜き栓を開けて、ヒートポンプに通水してください。」



- 15** 下図の画面が表示されたら、【決定】(OK)スイッチを押してください。

●メロディが流れます。



- 16** 暖房側の水はりは、各暖房端末のスイッチを「入」にすると、自動で行います。

- 下記のいずれかの場合、手順16の内容を実施せずに手順17以降を行ってください。
 - ・ガス給湯暖房用熱源機以外をご使用の場合
 - ・暖房に不凍液をご使用の場合
 - ・断水時に生活用水として使用した後の水はりの場合
- 通水後、初めて暖房・自動・おいだきを使用する場合でリモコンの表示画面に故障表示「543」が点滅する場合は、下記を行ってください。
 - ①ガス熱源機の水抜き栓②⑤～⑨が閉まっていること、暖房補給水栓が開いていることを確認してください。(P.20ページ)
 - ②電源を「切」にした後、再度「入」にしてください。

- 17** ガス栓を開けてください。

- 18** 取りはずしたカバー類を取り付けてください。(P.16ページ)

●再び使用するとき(タンク自動水はり運転)

再び使用するとき (手動水はり)

【水はり方法2】 手動で水はりを行う

お願い

- ・水抜き方法 1 で水抜きを行った場合は、水はり方法 1 で水はりを行ってください。
- ・凍結予防ヒーターの電源が「切」の場合は、「入」にしてください。
- ・水抜き栓は、工具で締め付けないでください。破損のおそれがあります。
- ・停電時にポータブル電源や非常用電源を接続してお湯を使用することができます。その場合の水はりは、「タンクユニットへの水はり」のみ行ってください。また、停電検知ユニット (RTKU-301) を接続している場合は家庭用蓄電池の自立運転でお湯を使うこともできます。その場合の水はりは「ヒートポンプユニットへの水はり」まで行ってください (お使いのリモコン取扱説明書を参照してください)。

準備

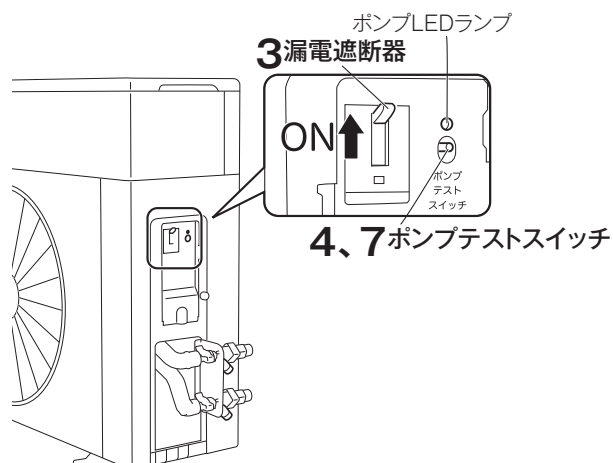
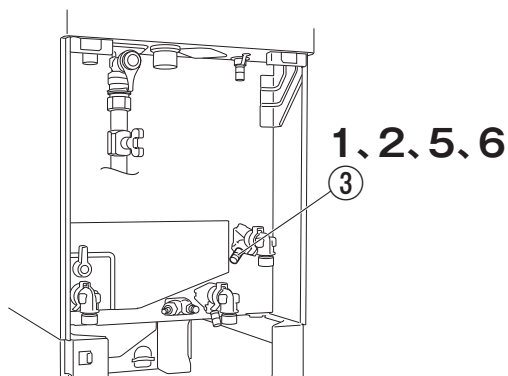
- 1 カバー類を取りはずしてください。
(16 ページ)
- 2 下記の栓がすべて閉めてあることを確認してください。(20 ページ)
 - タンクユニット 給水元栓、排水栓、水抜き栓①～⑥
 - ガス熱源機 ガス栓、水抜き栓②③～③②
 - ※暖房補給水栓は閉めないでください。
 - ヒートポンプ 水抜き栓 a・b
 - すべての給湯栓 (シャワーや台所など)
- 3 ヒートポンプユニットとガス熱源機 (タンクユニット含む) が通電していないことを確認してください。

タンクユニットへの水はり

- 1 給湯栓を開けてください。
 - 混合水栓の場合は、お湯側を開けてください。
- 2 給水元栓を開けてください。
- 3 5 分以上経過後、給湯栓から水が連続して出てきたら給湯栓を閉めてください。
※給水元栓を開けた直後の数分間は、水が連続して出てくる場合がありますが、給湯栓は閉めないでください。しばらくすると、空気と水が混ざって出てくる場合があります。

ヒートポンプユニットへの水はり

- 1 タンクユニットの水抜き栓③を開けてください。
- 2 水が 1 分以上連続して出てくることを確認したら、水抜き栓③を閉めてください。
※水が出ない場合はヒートポンプ配管の凍結や詰まりの可能性があります。水抜き栓③を閉めてヒートポンプユニットの電源を入れた後、29 ページの作業を行ってください。
- 3 ヒートポンプユニットの電源を入れてください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「ON」にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを屋外コンセントに差し込む)
 - ポンプ LED ランプが点滅します。



4 ヒートポンプユニットのポンプテストスイッチを押してください。

- ポンプLED ランプが点滅⇒点灯し、給水ポンプが強制運転します。

5 給水ポンプ運転中に、水抜き栓③を開けてください。

6 水が連続して出てくることを確認したら、水抜き栓③を閉めてください。

※水が出ない場合や、リモコンに故障表示されている場合は、ヒートポンプ配管の凍結かつまりの可能性があります。水抜き栓③を閉めて 29 ページの作業を行ってください。

7 再度ポンプテストスイッチを押してください。

- ポンプLED ランプが点灯⇒点滅し、給水ポンプが停止します。

タンク沸き上げ運転の確認

1 ガス熱源機の電源を入れてください。

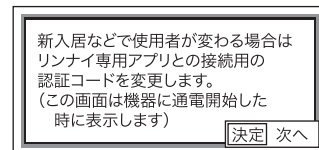
- 電源プラグを屋外コンセントに差し込み、ガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON) にします。
- コンセントは機器付近の壁などにあります。
- タンクユニットの電源も同時に入ります。

2 リモコンの【運転】(ON/OFF) スwitchを「入」にします。

- リモコンの時計および太陽光発電モードの設定はしないでください。設定すると沸き上げ運転に入らないときがあります。
- リモコン画面に下記のガイダンスが表示されている場合はガイダンスに従ってリモコンを操作してください。

スタンバイモード中
■ 停電モードに切り替える場合は
5分以内に「決定」スイッチを
5秒以上押してください
切り替えない場合は「運転」
スイッチを押してください。

(リモコンの【運転】(ON/OFF) スwitchを押してください)
(停電モードについてはリモコン取扱説明書参照)



(リモコンの【決定】(OK) スwitchなどを操作してください)
(詳しくは無線 LAN 接続設定ガイド参照)

3 約 5 分後、ヒートポンプユニットが自動でタンク沸き上げ運転を行います。

- ヒートポンプユニットの運転開始から約 10 分連続運転することを確認します。

※リモコンに故障表示されている場合は、配管内の凍結や詰まりの可能性があります。速やかにお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

※タンク沸き上げ運転が開始されない場合は、「緊急時対応モード」[電気] に設定して確認してください。約 10 分間連続運転することを確認したら、元の設定に戻してください。(設定方法は、お使いのリモコン取扱説明書を参照してください。)

再び使用するとき(手動水はり)

ふろ側・暖房側の水はり

1 ガス栓を開けてください。

2 時計を正しく設定してください。

3 リモコンの【運転】(ON/OFF) スwitchを「入」にしてください。

- 表示画面が点灯します。

4 【自動】スswitchを押してください。

- 表示画面に給湯燃焼表示が点灯します。
- ふろ配管に自動で水はりを行います。
- ガス給湯暖房用熱源機をご使用の場合は、暖房配管にも自動で水はりを行います。

通水後、初めて暖房・自動・おいだきを使用する場合でリモコンの表示画面に故障表示「543」が点滅する場合は、下記を行ってください。

①ガス熱源機の水抜き栓②⑤～⑨が閉まっていること、暖房補給水栓が開いていることを確認してください。(P. 20 ページ)

②電源を「切」にした後、再度「入」にしてください。

5 浴槽の循環アダプターからお湯が出ることを確認してください。

6 再度【自動】スswitchを押して、湯はりを中止してください。

カバー類の取り付け

1 取りはずしたカバー類を取り付けてください。(P. 16 ページ)

再び使用するとき (つづき)

水はりができない場合

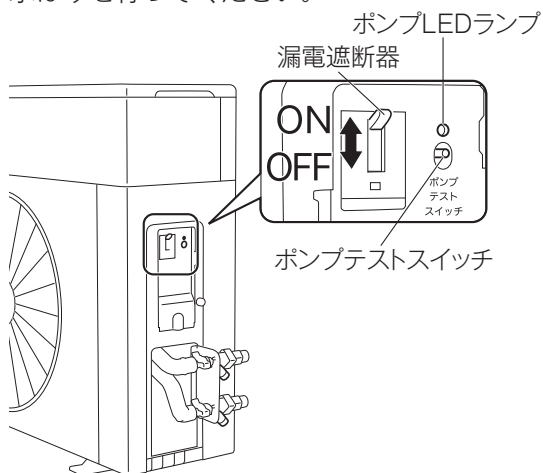
- 以下の操作でヒートポンプユニットは最大約 0.2kWh の電力量を消費します。

家庭用蓄電池を使用する場合は、蓄電池の残量に気をつけてください。

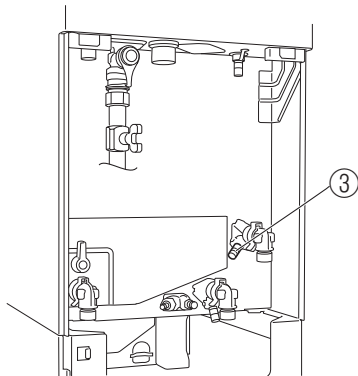
- この操作中は暖房、ふろ、マイクロバブルの運転操作をしないでください。

1 給水元栓が開いているか確認してください。

- 閉まっている場合は、再度水はりを最初から行ってください。ただし、リモコンが「548」故障表示している場合は、ヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを一度「OFF」にしてください。ポンプ LED ランプが消灯したら再度「ON」にし、水はりを行ってください。



2 タンクユニットの水抜き栓③を開けてください。



3 ヒートポンプユニットのポンプテストスイッチを5秒長押ししてください。

- ポンプ LED ランプが点滅⇒2回の速点滅します。

4 水が連続して出てくることを確認します。

※水が出ない場合は、配管内の凍結や詰まりの可能性があります。水抜き栓③を閉めて、速やかにお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

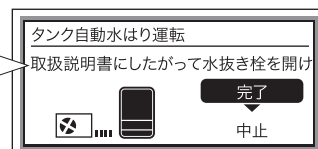
5 ポンプ LED ランプが2回の速点滅⇒点滅になったら、水抜き栓③を閉めてください。

※外気温が低いと時間がかかる場合があります。

【水はり方法1】の場合

6 下図の画面が表示されている場合は、「完了」を選択して【決定】(OK) スイッチを押してください。

「取扱説明書にしたがって、水抜き栓を開けて、ヒートポンプに通水してください。」



※上記作業を行っても故障表示する場合は、配管内の凍結や詰まりの可能性があります。速やかにお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

【水はり方法2】の場合

6 28 ページ「タンク沸き上げ運転の確認」に移行してください。

MEMO

■ 再び使用するとき

日常の点検・お手入れのしかた

安心してお使いいただくため、半年に1回以上、以下の点検を行ってください。

準備

- 1 ガス栓を閉めてください。
- 2 機器のカバーを取りはずしてください。
(P 16 ページ)
- 3 機器が冷めてから、点検・お手入れを行ってください。

日常の点検

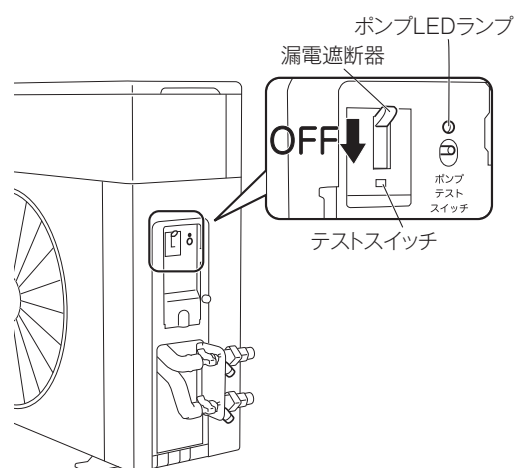
- 運転中に機器から異常音が聞こえませんか？
- 機器の外観に異常は見られませんか？また、各部品とも正しくセットされていますか？
- 沿岸部で潮風に当たりやすい地域でご使用の場合は、潮風に含まれる塩分によって機器本体や配管接続部にさびが発生しやすくなります。外観上のさびがひどい場合は、機器内部の部品への影響も考えられますので、点検（有料）をお願いします。また、万が一本体に穴があいた場合はすぐに使用を中止し、修理を依頼してください。
- 機器のまわりや排気口・給排気筒トップのそばに燃えやすいものはありますか？
- 給湯栓の先端に泡沫器が内蔵されているものについては、ときどき内部のフィルタ（金網）を掃除してください。
※水圧の低い地域では、泡沫器や浄水器を使用しないでください。お湯の量が少なくなります。
- 機器本体には安全に関する注意ラベルが貼ってあります。汚れたり、読めなくなったときはやわらかい布などで汚れを拭き取ってください。また、お手入れの際にははがれないようご注意ください。もしはがれたり読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。ラベルについては販売店または当社お客様センターにお問い合わせください。

配管の点検

- 機器および配管からの水漏れや保温材の破損などを点検してください。特に冬期に入る前には、保温材のチェックを行ってください。破損している場合、配管や機器が凍結し破損することがあります。
- 機器や周辺配管から水漏れが生じた場合は、給水元栓を閉めて、機器の電源を切ってからお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

電源の点検

- 1 アース線が途中で切れていないことを確認してください。
- 2 ヒートポンプユニットの漏電遮断器のテストスイッチを押してください。
※ぬれた手で漏電遮断器をさわらないでください。感電のおそれがあります。
※リモコン表示画面に故障表示「308」が点滅する場合や「ヒートポンプの電源を確かめてください」という音声が出る場合がありますが、異常ではありません。



- 3 電源レバーが「ON」から「OFF」になれば正常です。
● ポンプ LED ランプが点滅⇒消灯します。
※レバーが勢いよく下がりますので注意してください。
※「OFF」にならない場合は、お買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。
- 4 ガス熱源機の電源プラグを抜いてください。
● コンセントは機器付近の壁などにあります。
- 5 電源プラグや屋外コンセントを掃除してください。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを抜いて、電源プラグの掃除をしてください)

タンクのお手入れ

- タンクから排水して、タンクの底の湯あかを流します。

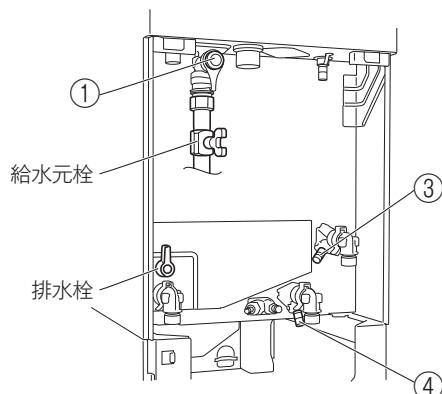
1 給水元栓を閉めてください。

※必ず行ってください。

2 排水栓を開けてください。

※熱いお湯が出る場合がありますのでご注意ください。

3 水抜き栓③・④を開けてください。



4 約2分間排水してください。

5 排水栓、水抜き栓③・④を閉めてください。

6 給湯栓を開けてください。

※混合水栓の場合は、お湯側を開けてください。

7 給水元栓を開けてください。

8 約5分以上経過後、給湯栓から水が連続して出てきたら給湯栓を閉めてください。

※給水元栓を開けた直後の数分間は、水が連続して出てくる場合がありますが、給湯栓は閉めないでください。しばらくすると、空気と水が混ざって出てくる場合があります。

ストレーナのお手入れ

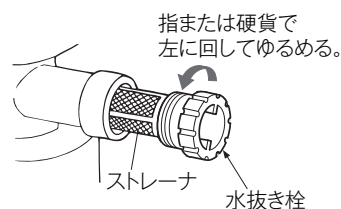
- 水抜き栓先端のストレーナのお手入れをします。ストレーナにごみなどが付いているとお湯の量が少なくなります。特に近くで水道工事があったときはご注意ください。

1 給水元栓を閉めてください。

※必ず行ってください。

2 タンクユニットの水抜き栓①をはずしてください。

※熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。



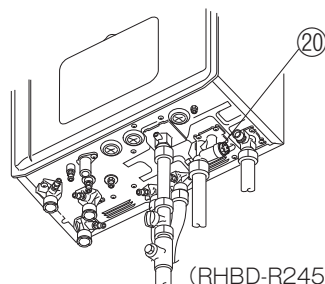
3 ストレーナに付いているごみを取り除いてください。

4 水抜き栓①を元通りに取り付けてください。

※必ずガス熱源機の水抜き栓②を取りはずす前に行ってください。

5 ガス熱源機の水抜き栓②をはずしてください。

※熱いお湯が出る場合がありますので、やけどに注意してください。



6 ストレーナに付いているごみを取り除いてください。

7 水抜き栓②を元通りに取り付けてください。

8 給水元栓を開けてください。

● 日常の点検・お手入れのしかた

日常の点検・お手入れのしかた(つづき)

日常の点検・お手入れが終了したら

- 1 ガス熱源機の電源を入れてください。
 - 電源プラグを屋外コンセントに差し込み、ガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「入」(ON) にします。
 - コンセントは機器付近の壁などにあります。
 - タンクユニットの電源も同時に入ります。
- 2 ガス栓を全開にしてください。
 - ガス栓はガス熱源機の下部または側部にあります。
- 3 ヒートポンプユニットの電源を入れてください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「入」(ON) にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを屋外コンセントに差し込む)
- 4 取りはずしたカバー類を取り付けてください。
(☞ 16 ページ)

定期点検

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、燃焼部などは年 1 回程度の定期整備をおすすめします。なお、この機器は給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。給水用具に関しては公益社団法人日本水道協会発行の給水用具の維持管理指針に示されている定期整備の実施をおすすめします。時期は 4 ～ 6 年に 1 回程度をおすすめします。(有料)
※整備の内容や定期整備を受ける先が不明の場合や整備費用などについては、お買い上げの販売店または当社お客様センターにお問い合わせください。
- 使用条件・環境条件によっては劣化しやすい消耗部品があり、定期的な交換が必要です。
※部品交換は純正部品をご指定ください。部品交換は有料で交換します。
- 不凍液の点検と交換（有料）
 - ・不凍液は年に 1 回は濃度や汚れなどの点検を、お買い上げの販売店またはもよりのガス事業者へ依頼してください。
 - ・不凍液の性能が低下していた場合は交換が必要です。交換のめやすは約 2 年に 1 回です。
※不凍液の性能が低下したまま使い続けると、凍結・破損・腐食の原因になります。

長期間使用しないとき

長期間使用しないときは次のことを行ってください。

⚠ 注意

- 冬期にハイブリッド給湯システムや凍結予防ヒータの電源を「切」にする場合や数日間お使いにならない場合は、システムの水抜きを行ってください。凍結すると配管などが破裂し、やけどや水漏れのおそれがあります。
- 長期間お使いにならないと、水質変化のおそれがありますので、必ずすべて排水してください。暖房回路に不凍液が入っている場合は、不凍液を抜く必要はありません。
- ぬれた手で、電源プラグや漏電遮断器をさわらないでください。感電のおそれがあります。

1 機器の水抜きをしてください。(P. 19 ~ 24 ページ)

2 ガス栓を閉めてください。

- ガス栓はガス熱源機の下部または側部にあります。

3 給水元栓を閉めてください。

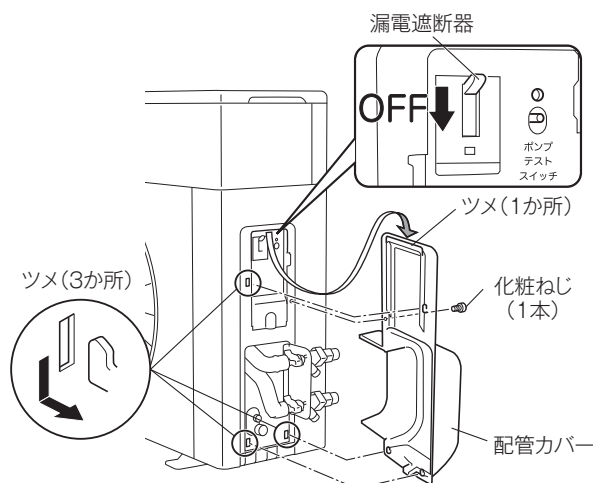
※給水元栓を閉める場合は、必ず機器の水抜きを行ってください。タンクユニットとヒートポンプユニット間の配管で循環不良が発生し、ヒートポンプユニットの過熱異常や、機器および配管の凍結破損の恐れがあります。

4 ガス熱源機の電源を切ってください。

- 電源プラグを抜く、またはガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「切」(OFF) にします。

5 ヒートポンプユニットの電源を切ってください。

- ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器またはヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「切」(OFF) にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを抜く)
- 漏電遮断器のレバーを「OFF」にする場合は、化粧ねじ (1 本) を取りはずし、配管カバーをはずしてください。「OFF」にしたら、配管カバーを取り付けてください。



● ■ 日常の点検・お手入れのしかた／長期間使用しないとき

断水したとき

断水したときは給水元栓を閉めてください。復旧したら、お湯を使う前に配管にたまっている水を出してください。

断水したとき

- 1 給水元栓を閉めてください。
- 2 すべての給湯栓を閉めてください。

断水が復旧したとき

下記の操作を行って、配管にたまっている水を出してからお使いください。

※水道工事などで濁った水が機器の中に入ると、機器内のストレーナが目詰まりし、湯量が少なくなったり、お湯が濁る場合があります。

- 1 給水元栓を開けてください。
- 2 混合水栓の水側を開けて、水を十分に出してください。

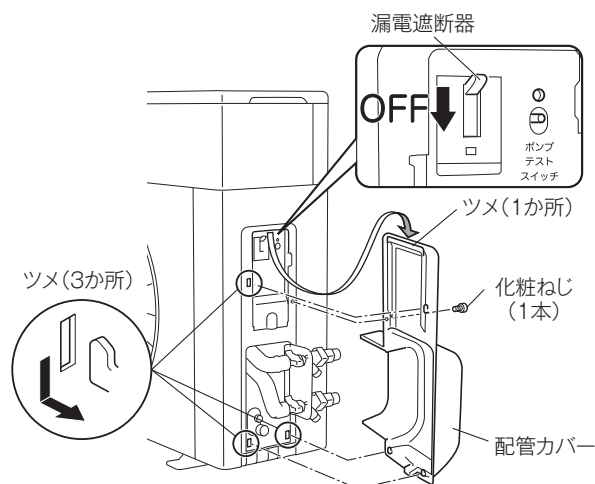
断水時にタンク内の水を使用するとき

市販のホースを接続して、タンク内の水を生活用水として使うことができます。（飲用は避けてください）

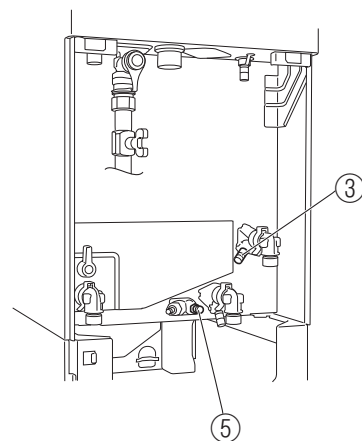
※ MC-301 シリーズ、MC-331 シリーズリモコンを使用している場合は、断水時でもタンク沸き上げを行うことができます。（詳しくはリモコン取扱説明書「タンク手動沸き上げモード」を参照してください）

- 1 ヒートポンプユニットの電源を切ってください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「切」(OFF) にします。
(RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを抜く)
 - 漏電遮断器のレバーを「OFF」にする場合は、化粧ねじ（1本）を取りはずし、配管カバーをはずしてください。「OFF」にしたら、配管カバーを取り付けてください。
 - ※リモコン表示画面に故障表示「308」が点滅する場合や「ヒートポンプの電源を確かめてください」という音声が出る場合がありますが、異常ではありません。

- 2 給水元栓を閉めてください。



- 3 市販のホース（内径 12mm）をタンクユニットの水抜き栓⑤（非常用取水栓）に差し込んでください。
- 4 ホース差し込み部を持って水抜き栓⑤（非常用取水栓）を左に回してください。
- 5 水抜き栓③を開けてください。
 - 水抜き栓⑤（非常用取水栓）からお湯（水）が出ます。
 - ※熱いお湯が出る場合がありますので、ご注意ください。
- 6 生活用水として使い終わったら水抜き栓③・⑤（非常用取水栓）を閉めてください。



生活用水として使った後に断水が復旧したら

下記の操作に沿って、水道工事などで濁った水が機器内に入らない状態にしてください。

- 1 給水元栓を開け、混合水栓の水側を開けてください。
- 2 水を十分に出し、濁った水が機器内に入らない状態になったら、混合水栓を閉めてください。
- 3 お客様のご使用状況に応じた方法で、タンクユニットに水はりしてください。

水はり 方法 1	「タンク自動水はり運転」機能で水はりを行う (MC-301 シリーズ、MC-331 シリーズリモコンご使用時は主にこの方法で水抜きします)	25 ページ参照
水はり 方法 2	手動で水はりを行う (停電時や MC-261 シリーズリモコンご使用時はこの方法で水抜きします) ※ポータブル電源や非常用電源使用時を含みます。	27 ページ参照

※リモコンに「手動水はりモード」の案内画面が表示される場合がありますが、その場合は水はり方法 1 で水はりを行ってください。

注意

- ぬれた手で漏電遮断器をさわらないでください。感電のおそれがあります。
- 取りはずしたカバー類が確実に固定されていることを確認し、定期的に点検してください。
取付ねじがゆるんではずれていたりすると、思わず事故の原因になります。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ってもよく調べてみると故障ではない場合もあります。

修理を依頼する前に、もう一度次の点をお調べください。

※お使いのリモコン取扱説明書、ガス熱源機取扱説明書に記載されている「故障かな？と思ったら」もご参照ください。

こんなときはここをお調べください

こんなとき	ここをお調べください	参照
給湯栓を開けてもお湯が出ない、または、少ない	タンクユニットやガス熱源機のストレーナにごみなどが詰まっていますか？機器から給湯栓までの通水抵抗が大きいと、お湯はり中に給湯栓から出るお湯が少なくなる場合があります。そのような場合は省エネ湯はり（Eco モード）を解除してください（詳しくはリモコン取扱説明書を参照してください）。	32 ページ
お湯はりに時間がかかる	効率良く運転するため、工場出荷時は省エネ湯はり（Eco モード）でお湯はりの流量を制限しています。省エネ湯はりを解除する場合はリモコン取扱説明書を参照ください。	
湯温が変動して安定しない	タンクユニットやガス熱源機のストレーナにごみなどが詰まっていますか？	32 ページ
タンク沸き上げ中、タンクユニットのオーバーフロー配管からお湯（水）が漏れる	貯湯温度の上昇とともに、タンク内のお湯（水）が膨張して、逃し弁が作動して、お湯（水）が出るためです。異常ではありません。タンク沸き上げ時以外でも、排水口からお湯（水）が出る場合はお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。	
冬期にタンク沸き上げ運転を行わず、ガス熱源機ばかりが作動して給湯を行う	数日間給湯しないで、その後気温が低い日が続くと、タンク内の水質を維持するためにタンク内を高温状態にしてタンクの湯を止水する時間を長く行う場合があります。この場合タンクの湯を止水している間は、ガス熱源機で給湯します。異常ではありません。 ※ MC-301 シリーズ、MC-331 シリーズリモコンをご使用の場合は、表示画面に「リフレッシュ運転」と表示されます。	
貯湯に時間がかかる	ヒートポンプユニットは外気熱を活用するシステムのため、外気温が低くなると沸き上げ能力が低下し、貯湯に時間がかかる場合があります。蓄電池自立運転モードや屋外コンセント接続のヒートポンプユニットではタンクのリモコン表示が満タンにならないことがあります。	
ヒートポンプユニットが運転・停止を繰り返す	気温が低いときは熱交換器の除霜のために運転・停止を繰り返します。	
沸き上げ運転中、ヒートポンプユニットの蒸発器（熱交換器）が霜で白くなる	冬季運転中は霜が付くことがあります。霜が多くなると自動で除霜運転をします。 このとき霜が水や湯気になって取り除かれます。	
ヒートポンプユニット底面から水が漏れている	ドレン口以外の場所から水が出ている場合は、ドレンソケットおよびドレンホースがつまっている可能性があります。お買い上げの販売店または当社お客様センターにご相談ください。 ※凍結のおそれがある地域では、ドレンソケット・ドレンホースがない場合があります。	
沸き上げ運転中、ヒートポンプユニットのドレン口から水が出る	ヒートポンプユニットが外気から熱を吸収するとき、結露した水が出てきます。	
寒いときに運転音がする	除霜運転や凍結予防のためのポンプ自動運転です。異常ではありません。	
リモコンの運転スイッチ（ON/OFF）を切ってもヒートポンプユニットが動く	リモコンの運転スイッチ（ON/OFF）を切ってもヒートポンプユニットは停止しません。 また、外気温度が低下すると、凍結予防のため自動運転します。	
お湯から油が出る お湯が臭い	初めて使用するときは、配管工事のときの油分などがお湯に混ざって出る場合がありますが、しばらくすると消えます。	
ヒートポンプユニットの架台が白く変色している	架台の表面処理材料である溶融亜鉛めっきの特性であり、異常ではありません。変色しても耐久性に問題ありません。	

故障表示が点滅する

機器が故障すると表示画面の時刻表示部に右図のような故障表示が点滅します。

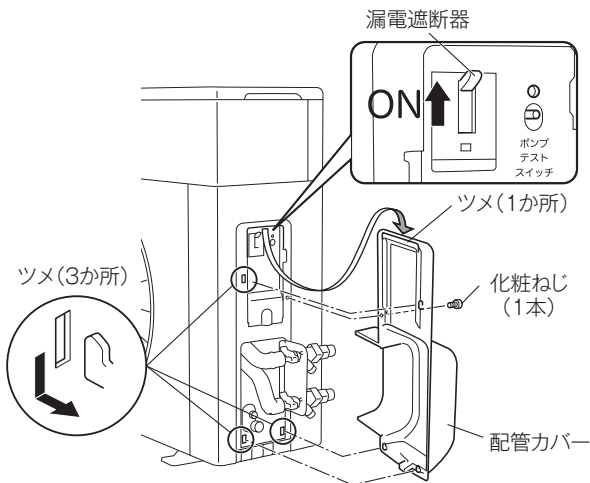
故障表示が点滅した場合は次の操作をしてください。

(BC-300VC(B)の例) (MC-301VC(B)の例)



「308」故障表示の場合

- 1 ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器が「切」(OFF)の場合、「入」(ON)にしてください。
- 2 ヒートポンプユニットの化粧ねじ(1本)を取りはずし、配管カバーを外してください。



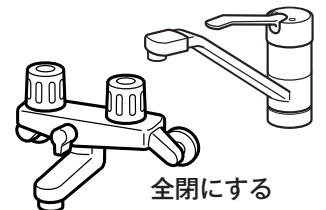
- 3 漏電遮断器のレバーがOFFの場合、ONにしてください。
- 4 ヒートポンプユニットの穴に配管カバーのツメ(4か所)を差し込み、配管カバーを取り付けてください。(化粧ねじ1本)
- 5 再び使用してみてください。

「308」故障表示以外の場合

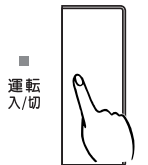
- 1 ガス栓と給水元栓が十分に開けてあるか確認してください。



- 2 すべての給湯栓を閉めてください。



- 3 運転スイッチ(ON/OFF)を「切」にして、再び「入」にしてください。



- 4 再び使用してみてください。

故障かな?と思ったら

修理依頼

上記の操作をしても故障表示が点滅するときは、41・42ページを参照して、修理依頼をしてください。

主な仕様・能力表

●システム構成ユニット一覧表

シ ス テ ム の 呼 び 方	ハイブリッド ふろ給湯システム	ハイブリッド 給湯・暖房システム	ハイブリッド ふろ給湯システム	ハイブリッド 給湯・暖房システム
ガ ス 熱 源 機	RHBF-RUM246AW RHBF-MR246AW RHBF-RUK246AW/T RHBF-RK246AW/T RHBF-RK206SAW/T	RHBD-RU245AW2-1 RHBD-R245AW2-1(S)	RHBF-RUM246AW RHBF-MR246AW RHBF-RUK246AW/T RHBF-RK246AW/T RHBF-RK206SAW/T	RHBD-RU245AW2-1 RHBD-R245AW2-1(S)
タンクユニット ※1	RTU-R700、RTU-R700K（寒冷地仕様）		RTUP-R700	
ヒートポンプユニット	RHP-R225		RHP-R225-P	
台 所 リ モ コ ン	MC-331 シリーズ、MC-301VC シリーズ、MC-301VCA シリーズ、MC-261VC シリーズ			
浴 室 リ モ コ ン	BC-332 シリーズ、BC-300VC シリーズ、BC-240VC シリーズ、BC-MB300VC シリーズ、BC-MB240VC シリーズ			

●タンクユニットの仕様表

品 名 ※1	RTU-R700		RTU-R700K（寒冷地仕様）	RTUP-R700
型 式	RTU-R700		RTU-R700	RTU-R700
設 置 方 式	屋外設置型			
外形寸法（mm） 幅 × 奥行 × 高さ	365 × 474 × 1255			
出荷時質量（kg）	26			
満水時質量（kg）	94			
タンク容量（L）	68			
最高圧力（Mpa）	0.48			
沸 き 上 が り 温 度	25 ～ 65℃			
接 給 水 口・給 湯 口	20A（R3/4）			
	ヒートポンプ往接続口（C）			
	15A（G1/2 B）			
	ヒートポンプ戻接続口（H）			
	15A（G1/2 B）			
熱 源 機 往 接 続 口（水）	20A（R3/4）			
	オーバーフロー接続口			
	15A（R 1/2）			
	排 水 接 続 口			
	15A（G 1/2 B）			
電 電 源	AC100V			
	待 機 時			
	0.3 W			
	消費電力(W) 作動時最大			
気 係	6 W			
	(50-60Hz)	凍 結 予 防 ヒ ー タ	88 W	127 W
安全 装 置		減圧弁（0.39MPa） 逃し弁（0.45MPa）		
給 水 装 置 認 証 番 号		NB2002		

仕様は改良のため予告なく変更することがあります。
 ※塩害仕様の場合は品名末尾に「-EG」や「EG」が追加されているものもあります。
 ※ 1 工場出荷時の設定によっては品名末尾に「-PV」が追加されている場合があります。

●ヒートポンプユニットの仕様表

品 名		RHP-R225			RHP-R225-P		
設 置 方 式		屋外設置型					
外 形 寸 法 (m m)		幅 737 × 奥行 250 × 高さ 675					
質 量		25kg					
冷 媒		冷媒 R32 冷媒封入量 365g					
設 計 圧 力		4.17MPa					
電 源 単 相		100V 50-60Hz					
最 大 電 流		12A			8.5A		
消 費 電 力		待機時 1.0W、作動時最大 1200W			待機時 1.0W、作動時最大 850W		
沸 上 げ 温 度 範 囲		25 ～ 65℃					
沸き上がり温度 45℃のとき		中間期※2	夏期※3	冬期※4	中間期※2	夏期※3	冬期※4
[定格/高能力]	加熱能力 (kW) ※1	2.3/4.2	2.3/3.8	2.3/3.9	2.3/3.3	2.3/3.8	2.3/2.9
	消費電力 (W)	411/957	319/591	469/952	411/631	319/591	469/638
タンクユニットとの接続口径		15A (R1/2)					
安 全 装 置		漏電遮断器					
給 水 装 置 認 証 番 号		NB2002					

仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

※1 低外気温時は除霜のため、加熱能力が低下することがあります。

RHP-R225-P シリーズではシステムでの消費電力を抑えるため、使用状況によって加熱能力が低下することがあります。

※2 ~ 4 加熱能力試験の作動条件は、沸き上げ温度 45℃で、下記となります。

中間期 (※2) : 外気温 (DB/WB) 16℃ / 12℃、水温 17℃

夏 期 (※3) : 外気温 (DB/WB) 25℃ / 21℃、水温 24℃

冬 期 (※4) : 外気温 (DB/WB) 7℃ / 6℃、水温 9℃

※塩害仕様の場合は品名末尾に「-EG」や「EG」が追加されているものもあります。

アフターサービスについて

■修理を依頼される前に

- 37・38 ページの「故障かな？と思ったら」の項を見てもう一度ご確認ください。
- 確認のうえそれでも不具合のある場合、あるいはご不明の点がある場合は、ご自分で修理なさらないで、次のことを行ってください。
 - 1 ガス栓、給水元栓を閉めてください。
 - 2 ガス熱源機の電源を切ってください。
 - 電源プラグを抜く、またはガス熱源機が接続されている分電盤の配線用遮断器を「切」(OFF) にします。
 - コンセントは機器付近の壁などにあります。
 - 3 ヒートポンプユニットの電源を切ってください。
 - ヒートポンプユニットが接続されている分電盤の配線用遮断器およびヒートポンプユニットの漏電遮断器のレバーを「切」(OFF) にします。
 - (RHP-R225-P シリーズの場合は電源プラグを抜く)
 - 4 お買い上げの販売店または当社お客様センターに修理を依頼してください。その際は、表示されている故障表示もお知らせください。
 - ※冬期の凍結のおそれがある時期の場合、配管凍結により故障が拡大する場合がありますので、速やかにお買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。
 - ※ヒートポンプユニットが故障しても、ガス熱源機の運転が正常であればお湯を使うことはできますが、お早めにお買い上げの販売店または当社お客様センターに修理を依頼してください。
- 修理をお申しつけの際は、次のことをお知らせください。
 - ①製品名(タンクユニットまたはヒートポンプユニット)
 - ②品名(銘板表示のもの) (P. 1 ページ)
 - ③故障または異常の内容(故障表示の数字など)
 - ④ご住所・お名前・電話番号・道順(付近の目印など)
 - ⑤訪問ご希望日

■転居または機器を移設される場合

- 増改築などのため機器を移設される場合、工事や調整は専門の資格・技術が必要となりますので、必ずお買い上げの販売店にご連絡ください。
- 設置場所の選定にあたっては運転音や振動が大きく伝わらないよう場所をお選びください。また、ガス熱源機本体の排気口からの温風や運転音が隣家の迷惑にならないような場所を選ぶなど、ご配慮ください。
- 転居・移設にともなう調整や改造に要する費用は、保証期間内でも有料となります。

■保証について

- 本書の裏表紙が保証書になっています。(ガス熱源機の保証書はガス熱源機についています)
- 必ず「販売店名・購入日」などの記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 当社は保証書に記載してあるように、機器の販売後、機器に故障がある場合、一定期間の一定条件のもとに、無料修理に応ずることを約束いたします。(詳細は保証書をご覧ください)
- 保証期間経過後の故障修理については、修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理致します。
- 保証書を紛失されますと保証期間内であっても修理費をいただく場合がありますので大切に保管してください。
- 凍結による故障の場合は保証期間内であっても有料となりますのでご注意ください。
- 自然災害(虫や小動物・雑草などの侵入など)による故障は、保証期間内でも有料修理となりますのでご承知おきください。
- この機器はBL 認定品ですので「優良住宅部品」「瑕疵保証・賠償責任保険付」です。
- 一般財団法人ベターリビングお客様相談室の電話番号は「03-5211-0680」です。

■補修用性能部品の保有期間について

- この機器の補修用性能部品の保有期間は製品本体の製造打切後 BL 認定品は 10 年、その他の機器は 7 年です。BL 認定品にはガス熱源機のフロントカバーに右の表示があります。
- 性能部品とは製品の機能を維持するために必要な部品です。



■アフターサービスなどの連絡先

- お買い上げの販売店または当社お客様センターにご連絡ください。

■お客様の個人情報の取り扱いについて

- 当社はお客様よりお知らせいただいたお客様のお名前・ご住所・電話番号などの個人情報を、サービス活動および安全点検活動のために利用させていただく場合がございますのでご了承ください。
- 当社は、機器の修理や点検業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供はいたしません。

■交換部品のお求めは

- 当社のインターネット販売サイト Rinnai Style（リンナイススタイル）では、交換部品や別売品・お手入れ品などを幅広く取り扱っております。交換部品はお客様自身でお取り替えできる部品が対象です。
なお、取扱説明書を紛失した際も下記サイトからお買い求めいただけます。

Rinnai Style	当社製品の交換部品・お手入れ品などをインターネット販売サイトよりご注文いただけます。 https://www.rinnai-style.jp/
--------------	--

タンクユニット ヒートポンプユニット

保証書

品名	タンクユニット	RTU-R700 RTU-R700-PV RTU-R700K RTU-R700K-PV
	ヒートポンプユニット	RHP-R225 RHP-R225-P

この製品は厳密なる品質管理および検査を経てお届けしたものです。
本書は、お客様の正常な使用状態において万一故障した場合に、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。

記

- 保証期間は、お買い上げの日から BL 認定品は 2 年間（貯湯タンクは 5 年間、熱交換器と圧縮機は 3 年間）、その他の機器は 1 年間とし、タンクユニット本体とヒートポンプユニット本体を対象とします。
保証期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- ご転居の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
- ご贈答品などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には、当社お客様センターにご相談ください。
リンナイ(株) お客様センター フリーダイヤル：0120-054321
- 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 保証についての規定は下記をご覧ください。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い上げの販売店またはもよりの弊社窓口が無料修理いたします。
 - 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、お買い上げの販売店にご依頼の上、出張修理に際して本書をご提示ください。なお、離島および離島に準ずる遠隔地へのお出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
 - 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の取付場所の移動、落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 犬・猫・鳥・鼠・くも・ゴキブリなどの小動物や昆虫類の侵入などに起因する不具合。
 - (ニ) 火災・凍結・水害・地震・落雷・ばい煙・降灰・酸性雨・異常気象その他の天災地変や公害・塩害・ほこり・腐食性の有害ガス・異常電磁波・異常電圧・異常周波数による故障および損傷。
 - (ホ) 建築躯体の変形等、機器本体以外に起因する不具合、塗装の色あせ等の経年変化またはご使用に伴う摩耗等によって生じる外観上の現象。
 - (ヘ) 一般家庭用以外（例えば、業務用の長時間使用、車両、船舶への搭載）に使用された場合の故障および損傷。
 - (ト) 本書の提示がない場合。
 - (チ) 本書にお買い上げ年月日、販売店名の記入のない場合あるいは字句が書き替えられた場合。
 - (リ) 指定外の燃料、使用電源（電圧）の使用による故障および損傷。
 - (ヌ) 温泉水・井戸水・地下水を給水したことに起因する不具合。
 - (ル) 水道管の錆びなど、異物の流入による故障および損傷。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または当社お客様センターにお問合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは 41・42 ページをご覧ください。

お買い上げ日および販売店名

お客様	ご芳名	販売店	店名	取扱者印
	ご住所		住所	
	お買い上げ日		電話番号	

修理記録

この機器の修理記録は、機器内に収納の故障診断シートに記録します。

お客様へ

この保証書をお受取りになるときに お買い上げ日、販売店名、取扱者印が記入してあることを確認してください。

リンナイ株式会社

〒454-0802 名古屋市市中川区福住町2番26号
TEL 代表 052-361-8211

故障・修理・製品についてのお問い合わせ

■インターネットの場合

修理のお申し込み

お問い合わせ・サポート



■お電話の場合（お客様センター）

修理の受付：365日 24時間

お問い合わせ：9：00～18：00

※日曜・祝日・当社指定休日を除く

フリーダイヤル ☎ 0120-054321

携帯電話からは下記におかけください。（通話料が発生します。）

ナビダイヤル ☎ 0570-550258

保守点検・所有者登録についてのお問い合わせ

保守点検コールセンター ☎ 0120-493110

受付時間 9：00～18：00
※土日・祝日・当社指定休日を除く

H213-0805×03(01)Ⓚ



060 00012 84537 2